

Network Camera

オンラインヘルプ

TNU-6324E/TNU-6324ER

ライブ画面

カメラで撮影しているライブ映像を確認したり、画面キャプチャー等の様々な機能を制御することができます。画面上の■ボタンをクリックすると、ライブ画面が表示されます。

上のボタンをクリックすると、ライブ画面や再生画面、設定画面に移動することができます。

- (ライブ)：カメラで撮影中のライブ画面を確認して、様々なカメラ機能を制御することができます。
- ⚙(設定)：カメラの詳細設定を変更することができます。

i 参考事項

- ライブページの右上にあるアイコン  をクリックすると、接続したIPアドレスや認証状況を確認することができます。認証に成功した場合には緑のアイコン、失敗した場合には赤のアイコンに表示されます。また、HTTPに接続して該当事項がない場合にはダッシュ(-)に表示されます。
- Chromeでウェブビューアに接続すると、再生画面の機能を最も安定した状態で使用することができます。
- ライブページで映像を再生する場合、下記の条件で画面に残像が表示されることがあります。
 - プロファイルを変更するときに解像度が変わる場合
 - プロファイルを変更するときにネットワーク遅延発生でデータ受信が遅れる場合
 - ウェブブラウザのサイズ変更&位置を移動する場合

アイコン

ライブ画面の下にあるアイコンは下記の機能をします。
特定ブラウザまたはCodecでは一部の機能が動作しない場合があります。

アイコン	機能説明
 <u>ビデオ設定</u>	現在のライブ画面に適用されたプロファイルを確認したり、プロファイルを変更することができます。また、ライブ画面のディスプレイ設定を変更することができます。
 <u>PTZ</u>	カメラのパン/チルト/ズーム動作を制御することができます。[設定]>[PTZ]>[PTZ設定]ページで設定したプリセットの位置に移動するか、スウィング、グループ、ツアー、トレースを開始して中止することができます。
 <u>ステータス</u>	プロファイルごとに接続情報や現在カメラに接続したユーザーの情報を確認することができます。

アイコン	機能説明
 全画面	ライブ画面を全画面に表示することができます。元のウェブブラウザのサイズに戻るためには、全画面モードでボタンをもう一度クリックするかキーボードの[ESC]キーを押します。
 サイズオプション	一度クリックするたびに、下記のモードに変更されます。 •  (適合) : カメラ映像をウェブブラウザのサイズに合わせて表示します。 •  (オリジナルサイズ) : カメラ映像の実際解像度サイズに表示します。 •  (アスペクト比) : カメラ映像解像度の縦横比を維持したままライブ画面をズームインまたはズームアウトしてウェブブラウザのサイズに表示します。
 キャプチャー	ライブ画面をキャプチャーしてPNG画像ファイルに保存することができます。キャプチャーした画像ファイルは、各ブラウザのデフォルト保存パスに保存されます。
 ワイパー	ボタンをクリックすると、ワイパーが往復動作します。
 ウォッシャー	ボタンをクリックすると、外部に付着されたウォッシャーが動作します。動作3秒後、自動でオフになります。 ウォッシャーを実行するにはウォッシャー位置をまず設定する必要があります。ウォッシャー位置を設定するには、[設定]>[PTZ]>[PTZ設定]>[プリセット]で[ウォッシャー位置設定]ボタンをクリックしてください。

アイコン	機能説明
 録画	ライブ画面を手動で録画してPCに保存することができます。保存ボタンをクリックして録画を開始し、もう一度クリックすると録画を止めます。録画ファイルは.aviタイプで保存することができます。ブラウザによってブラウザのデフォルト保存パスに保存されるか別名で保存からファイルパスを設定することができます。 録画映像にパスワードを設定するには、録画映像ファイルタイプリストでZIPを選択した後、パスワードを入力します。ダウンロードした映像を再生するときに、設定したパスワードを入力してから映像を再生することができます。 録画映像のパスワード設定機能は、一部カメラモデルでは対応していません。
 ピクセル数	ライブ画面でマウスで選択した領域の水平/垂直ピクセル数を確認できます。ピクセル数ボタンをクリックした後、エリアをマウスでクリックしてドラッグします。選択したエリアが表示され、映像のピクセル数が表示されます。ピクセル数ボタンをもう一度クリックすると、ピクセル数機能を終了します。
 アラーム出力	選択したいアラーム出力No.をクリックすると、設定した情報でアラームを出力します。アラームは、[設定]>[イベント]>[アラーム出力]ページで設定することができます。アラーム出力数は、カメラごとに異なります。

映像をキャプチャーするには、

- キャプチャーするシーンでキャプチャーアイコン()をクリックします。
- キャプチャーを保存すると、通知メッセージが表示されます。各ブラウザの保存パスにキャプチャー画像を保存します。

映像を録画するには、

- 保存アイコン()をクリックします。
 - 手動録画を終了するには、もう一保存アイコン()をクリックします。
- ユーザーPCに手動録画を.aviファイルで保存することができます。パスを指定して映像を保存してください。
- 録画した映像にパスワードを設定するには、
- 録画タイプをZIPに選択した後、“REC”アイコンをクリックすると、パスワードが設定できます。

ユーザーPCに録画したファイルが.zipファイルに保存され、映像を再生するときに設定したパスワード入力する必要があります。(録画映像のパスワード設定機能は、一部カメラモデルでは対応していません。)

全画面に切替するには、

- 全画面アイコン(□)を選択します。ビューア画面が全画面に変更されます。
- 全画面モードを終了するには、もう一度全画面アイコン(□)をクリックするかキーボードの[Esc]キーをクリックします。

ピクセル数をカウントするには、

- ピクセル数アイコン(□)をクリックします。
- 映像上でマウスをドラッグしながら領域を設定します。該当領域の水平/垂直ピクセル数が画面に表示されます。

ビデオ設定

プロファイル

現在のライブ画面に適用されたビデオプロファイル名とインフォメーションが表示されます。[Profile]ドロップダウンボタンを押すと、現在のWebviewerで使用できるビデオプロファイルリストが表示され、適用したいビデオプロファイルを選択すると、ライブ画面にすぐ適用されます。選択したビデオプロファイルの解像度、Codec、フレームレート、ターゲットビットレートを確認することができます。

表示

ライブ画面の画面表示を設定できます。設定値を入力すると、ライブ画面にすぐ適用されます。🔄ボタンをクリックすると、設定したすべての値が初期化されます。

PTZ

カメラのパン/チルト/ズーム動作を使用することができます。

ズーム動作制御

ズームバーで➕ボタンをクリックすると画面がズームイン、➖ボタンをクリックするとズームアウトされます。

パン/チルト動作制御

パン/チルトエリアで📍ボタンをクリックしてカメラの方向を移動します。

フォーカス調整

📍ボタンか▲ボタンをクリックしてカメラのフォーカスを調整します。
カメラのフォーカスを自動で一度合わせるには、🔄ボタンをクリックします。

PTZ機能使用

すでに設定した位置にカメラを移動させるかスウィング、グループ、ツアー、トレース機能を開始して中止することができます。関連の設定は、[設定]>[PTZ]>[PTZ設定]ページを参照してください。

ステータス

プロフィール接続情報

現在、設定されたすべてのプロフィールのアクセス状況を確認したり、アクセス中の現在ユーザーの状況を確認することができます。

接続ユーザー情報

現在、カメラにアクセスしたすべてのユーザーのユーザー別に適用したプロフィール、ビットレート(kbps)、ネットワーク接続ステータス、IPアドレスを確認することができます。

ビデオプロファイル

ビデオプロファイルを追加したり削除してプロファイル設定を変更することができます。ビデオ解像度、フレームレート、Codecなどを「ビデオprofile」にすでに設定した後、環境と状況によってユーザーが望むプロファイルに変更して映像をストリームしたり再生することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックして設定を適用してください。

ビデオプロファイル接続ポリシー

プロファイル設定が変更された時、既存のプロファイルに映像を出力し続けるか変更されたプロファイルに映像を出力し続けるかを設定することができます。
[プロファイルの設定変更後も、接続を維持する]を選択すると、プロファイル設定を変更しても既存のプロファイル設定に映像を出力し、再度ウェブビューアーにアクセスした時、変更されたプロファイルに映像を出力します。
[プロファイルの設定変更後も、接続を維持する]を選択しないと、プロファイル設定を変更した時にすぐ変更されたプロファイルに映像が出力されます。

ビデオプロファイル

製品の使用環境と状況によってビデオのプロファイルを選択することができます。初期値に提供されるプロファイルの他に新しいプロファイルを追加したり削除することができます。プロファイル別にCodec、プロファイルタイプ、解像度、フレームレート、最大ビットレート、目標ビットレート、ビットレート制御、マルチキャストなどを設定することができます。

Profileリスト

初期値に提供されるプロファイルのリストとユーザーが追加したプロファイルのリスト両方とも表示されます。

ビデオprofile追加

1. [追加]ボタンをクリックします。プロファイルリストで新しい項目が追加されます。
2. [名前]フィールドにプロファイル名を入力します。プロファイルリストに入力した名前が表示されます。
3. [コーデック]、[プロファイルタイプ]、[解像度]など、プロファイルの詳細を設定します。
4. ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
5. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。新しいプロファイルが追加されます。

ビデオprofileの設定変更

1. プロファイルリストで詳細設定を変更するプロファイルを選択します。
2. [コーデック]、[プロファイルタイプ]、[解像度]など、プロファイルの詳細設定を変更します。
3. ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
4. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。選択したプロファイルの設定が変更されます。

ビデオprofile削除

1. プロファイルリストで削除するプロファイルを選択します。
2. [削除]ボタンをクリックします。
3. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。選択したプロファイルが削除されます。

名前

プロファイルリストで選択したプロファイル名が表示されます。新規でプロファイルを生成する時、プロファイル名を入力することができます。

コーデック

プロファイルに適用するCodecを選択します。選択したCodecタイプによって、プロファイル設定の詳細が異なります。

プロファイルタイプ

適用するプロファイルタイプを選択します。選択したプロファイルタイプは、プロファイルリストの[タイプ]カラムに表示されます。選択したCodecタイプによって表示される設定項目が異なります。

- 基本プロファイル：カメラの映像をライブにストリームする時、適用される基本Profileです。プロファイルリストの[タイプ]に「Default」と表示されます。
- Eメール/FTPプロファイル：イベントが発生すると、キャプチャー画面をE-mailとFTPサーバーに伝送する時に使用するビデオProfileです。プロファイルリストの[タイプ]カラムに「Event」と表示されます。
- フレームレート固定プロファイル：映像のフレームレートを一定レベルで保障する時、適用するプロファイルです。プロファイルリストの[タイプ]に「FrameLock」と表示されます。[コーデック]を[H.264]または[H.265]に設定した場合のみ、「フレームレート固定プロファイル」オプションが表示されます。

クロップエンコーディング

クロップエンコーディングは、全画面で選択したエリアだけを切って[プロファイル設定]で設定された解像度に合わせて出力します。クロップエンコーディング設定エリアより小さいサイズの解像度のみ設定することができます。現在、設定中のプロファイルにクロップエンコーディングを適用するには、[有効]を選択します。

トリミング領域設定

1. クロップエンコーディングを[有効]に設定した後、[エリア設定]ボタンをクリックします。
2. [クロップエリアの設定]のプレビュー画面でマウスをドラッグしてエリアを設定します。[手動]を選択した後、エリアを選択します。
3. エリア設定を完了したら、[OK]ボタンをクリックします。

参考事項

- [クロップエリアの設定]でユーザーが任意で範囲を指定した場合、ユーザーが指定した範囲で出力解像度と最も近い解像度に出力します。

- [ビデオ&オーディオ]>[カメラ設定]>[スペシャル]>[DIS]設定を変更すると、トリミング設定領域が異なる場合があります。DIS設定を変更する時、クロップエンコーディングのエリアを再設定してください。

プロフィール設定

現在、設定中のビデオprofileの詳細を設定します。

解像度

カメラ映像の解像度を設定します。

参考事項

- 高解像度の映像を問題なくストリームするためには、Chromeでウェブビューアーにアクセスすることをお勧めします。

フレームレート

1秒当たりのフレーム数を設定します。

[ビデオ&オーディオ]>[カメラ設定]>[センサーモード]で選択したフレームレート値によって、設定できるフレームレートの範囲が異なります。

最大ビットレート

[ビットレート制御方法]が[VBR]の場合、映像の最大ビットレートを設定します。

ターゲットビットレート

[ビットレート制御方法]が[CBR]の場合、伝送する映像データの量を設定したターゲットビットレートに固定して映像を伝送します。

詳細

Profileの[コーデック]を[H.264]や[H.265]に設定した場合には、すべての詳細設定項目が表示されます。Profileの[コーデック]を[MJPEG]に選択した場合は、[エンコーディング優先順位]項目のみ表示されます。

ビットレート制御方法

映像データ量をどう調整するか設定することができます。

- CBR：固定ビットレート(Constant Bitrate)は、フルフレームのデータを一定サイズに固定して伝送するタイプです。CBRを選択すると、ターゲットビットレートを設定して伝送するデータのサイズを設定します。CBRの場合、固定的なデータサイズをもつため、全体的なシステムのデータサイズを予測しやすく安定的にシステムを運用することができます。
- VBR：可変ビットレート(Variable Bitrate)は、フレームのデータサイズを固定せずに最大ビットレート内で映像を伝送するタイプです。VBRは、画質を維持しながらストレージスペースの容量や帯域幅を効率的に使用することができるが、映像が急に複雑になったり大きいモーションがある場合ネットワークに負担がかかります。

i 参考事項

- ビットレート制御を「CBR(固定ビットレート)」に設定してから画質優先モードを選択した場合、画面の複雑度によって設定されたビットレートで最大限に画質を保障するために実際伝送されるフレームレートが設定されたフレームレートと異なる場合があります。

エンコーディング優先順位

映像データ量がターゲットビットレートの値を超える時、フレームレートと画質に何を優先順位としてエンコーディングするか設定します。

Profileの[コーデック]を[H.264]や[H.265]に選択した場合、[フレームレート]と[圧縮]の中で選択することができます。[フレームレート]を優先順位に設定すると、フレームレートを最大限に保障するが画質は低くなることがあります。逆に[圧縮]を優先順位に設定すると、画質は保障するが抜け落ちるフレームが発生して映像が切れたり不自然になることがあります。Profileの[コーデック]を[H.264]や[H.265]に選択した場合、[エンコーディング優先順位]は[ビットレート制御方法]を[CBR]に設定した場合のみ有効となります。

Profileの[コーデック]が[MJPEG]の場合、[フレームレート]と[ビットレート]の中で選択することができます。

GOV長

GOV(Group of Video)はH.264/H.265のビデオ圧縮のための映像フレームの集合でIフレームから次のIフレームまでのフレーム集合を意味します。GOV内には、IフレームとPフレームという2タイプのフレームがあります。Iフレームは圧縮の基本となるフレームでキーフレームとも呼ばれ、完全な一枚の画像データを持つ独立的なフレームです。Pフレームは前のフレームを基準に変更された部分の情報のみを持っているため、映像データ量が少ないです。したがって、GOV長が長いほどIフレーム数は少ないため映像データ量も少なくなるし、GOV長が短いほどIフレームが多くなるため映像データ量も多くなります。GOV長の最大値は[プロファイル設定]の[フレームレート]によって異なります。

プロファイル

ProfileのCodecが[H.264]の場合のみ、メニューが有効となります。Profileは圧縮する時に使用する様々な圧縮技術を組み合わせた集合とも言えます。Hanwha Visionのカメラで対応するProfileは[Baseline]、[Main]、[High]です。BaselineでHighに行くほど圧縮性能が高くなって画質が良くなるが、圧縮する時と圧縮を解凍する時にシステムのリソースが多く使用され再生デバイスに負荷がかかります。(カメラの仕様により対応するオプションが異なる場合があります。)

エントロピー符号化

エントロピー符号化は、シンタックス(Syntax)の統計を用いた可変長コーディングで無損失の圧縮タイプです。

CAVLC (Context Adaptive Variable Length Coding)とCABAC (Context Adaptive Binary Arithmetic Coding)の2タイプを提供します。(カメラの仕様により対応するオプションが異なる場合があります。)但し、Baseline Profileの場合にはCAVLCタイプのみ使用できます。

- CABAC : 圧縮率が高いが、データの処理過程が複雑でシステムリソースを多く使用します。

- CAVLC：CABACに比べて圧縮率が低い、データの処理過程がシンプルでシステムリソースを少なく使用します。

スマートコーデック

スマートコーデックの使用有無を設定します。スマートコーデックは、映像でユーザーが好むエリアは圧縮率を減らして高画質で出力し、その他の部分は圧縮率を上げて標準画質に出力して全体の映像データサイズを減らすHanwha Visionの独自技術です。スマートコーデックは[ビットレート制御方法]が[CBR]の時のみ有効になります。

スマートコーデックのROI領域は、[ビデオ&オーディオ]>[スマートコーデック]で設定することができます。

ダイナミックGOV

ダイナミックGOV機能を現在設定中のProfileに適用するには、[有効]を選択します。

ダイナミックGOVは、映像状況によってGOV長が最小GOV長の設定値から最大ダイナミックGOVの設定値まで自動に変更される機能です。ほとんどモーションがない映像ではGOVが[ダイナミックGOV]でユーザーが設定した値に動作して全体映像のビットレートが短縮されます。モーションを検知すると、その直後に1フレームが出力され、この後モーションがなくなるまでGOVが[GOV長]の設定値に動作することになります。

- 映像にモーションがない時に適用する最大GOV長値を入力します。入力値の範囲は[GOV長]の横に表示されます。[GOV長]に入力した値が最小値になり、最大値は[プロファイル設定]の[フレームレート]によって異なります。

i 参考事項

- ワイズストリーム機能を使用する場合、ダイナミックGOVとダイナミックFPS機能を使用するとワイズストリームの性能が最適化されます。ワイズストリームは[ビデオ&オーディオ]>[ワイズストリーム]メニューで設定することができます。

ダイナミックFPS

ダイナミックFPS機能を現在設定中のProfileに適用するには、[有効]を選択します。

ダイナミックFPS(Dynamic FPS)は、映像状況によって最小FPS設定値からフレームレートの設定値まで自動に変更される機能です。ほとんどモーションがない映像では、FPSが最小FPSの設定値に動作することになって全体映像のビットレートが短くなります。モーションを検知すると、FPS値を増加させて動作します。

最小FPS

ダイナミックFPSが動作する時、適用する最小FPS値を入力します。
フレームレート値が1のときは[最小FPS]のオプションが表示されません。

i 参考事項

- ワイズストリーム機能を使用する場合、ダイナミックGOVとダイナミックFPS機能を使用するとワイズストリームの性能が最適化されます。ワイズストリームは[ビデオ&オーディオ]>[ワイズストリーム]メニューで設定することができます。
- ダイナミックFPSは[コーデック]を[H.264]や[H.265]に選択して[ビットレート制御方法]が[VBR]の時のみ有効になります。

マルチキャスト

マルチキャストは、一台のカメラで発生した映像を接続された数台のデバイスに送る時に使用します。現在、設定中のProfileでRTSP (Real Time Streaming Protocol) プロトコルの使用有無を設定して詳細を入力します。

マルチキャスト(RTSP)

RTSPプロトコルを使用して映像を伝送するには、[有効]を選択します。

IPアドレス

IPv4網でアクセスできるIPv4アドレスを入力します。マルチキャストIPアドレスの範囲は、224.0.0.0から239.255.255.254までに設定できます。但し、端に255は使用できません。

ポート

映像伝送を制御するポートを設定します。マルチキャストRTSPポートの範囲は1024から65534で、範囲の中で偶数にしてください。(但し、3702ポートは使用できません。)

TTL

RTSPパケットのTTLを設定することができます。TTL値は0から255までの数のみ入力することができます。

ユーザー

カメラにアクセスするユーザーのアカウントを管理します。マネージャのパスワードを変更することができ、ゲスト設定、認証設定、現在のユーザー設定が可能です。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

管理者情報の変更

マネージャアカウントのIDとパスワードを変更することができます。セキュリティを強化するためにローマ字の大文字&小文字、数字、特殊文字などを様々に組み合わせパスワードを生成してください。

ID

現在、使用中のマネージャIDを確認したり変更することができます。

参考事項

- マネージャIDは、英数字のみ入力することができます。また、最大8文字まで入力できます。
- マネージャIDで基本ゲストIDの「guest」や基本ユーザーIDの「user1」、「user2」...「user10」は使用できません。

現在のパスワード

現在、使用中のパスワードを入力します。管理者のパスワードが誤って変更されないように、現在の管理者パスワードを入力してから新しい管理者パスワードを入力します。

新しいパスワード

新しく使用するパスワードを入力します。

新しいパスワード(確認)

新しく使用するパスワードを間違えて入力した場合のために確認する手順です。新しいパスワードをもう一度入力します。

参考事項

- パスワードは3カ月周期で変更することをお勧めします。
- パスワードの制限は次のとおりです。
 - 出荷条件初期化後、マネージャ&ユーザーのパスワードはすべて初期化されるため、パスワードを再設定する必要があります。
 - カメラ・ウェブビューアーに初アクセスしたり初期化後にアクセスする場合、パスワード設定メニューに移動します。
 - パスワード変更メニューで新しいパスワードを設定し、変更されたパスワードでウェブビューアーに再ログインしてからウェブビューアーメニューを使用することができます。

- マネージャのパスワードを変更する時、既存のパスワードが一致しないと、パスワードを変更することができません。
- ウェブビューアーにログインする時、パスワード認証失敗を5回超過すると30秒間ロックされウェブビューアーにアクセスできなくなります。
- 同じIDで数カ所からアクセスしたり、複数のインターネットブラウザを開いたままパスワードを変更すると、インターネットブラウザが誤動作することがあります。パスワードを変更する時には、一カ所でアクセスしたり一つのインターネットブラウザのみを使用して変更することをお勧めします。

ゲスト設定

[ゲストアクセス許可]を選択すると、ウェブビューアー画面にゲストがアクセスすることができます。ゲストアカウントにアクセスすると、ウェブビューアーでライブ画面しか確認することができません。ゲストIDとパスワードは「guest/guest」で変更できません。

認証設定

[認証されていないRTSPへの接続許可]を選択すると、RTSP (Real Time Streaming Protocol)を用いてカメラ映像にアクセスする時、認証なしでアクセスすることができます。

接続ユーザー情報

管理者の他にユーザーアカウントのアクセス情報を設定して音声入力、音声出力、アラーム出力、プロファイルなどの使用権限を設定することができます。登録したユーザーがログインした時、ユーザーごとに設定された機能のみ有効になります。初期値に10つの現在のユーザーアカウントが設定されており、アカウントを追加したり削除することができます。現在のユーザーアカウントは最大10つまで使用することができます。

参考事項

- 設定されたユーザーの中でONVIFを使用するためのアカウントに設定したい場合、設定された権限によって機能使用が制限されます。

使用

選択したユーザーアカウントを有効にするには、チェックボックスを選択します。

名前

IDを入力します。

パスワード

パスワードを入力します。パスワード設定規則は、管理者パスワードの設定規則と同一です。

管理者権限

選択したユーザーに管理者権限を与えます。一般ユーザーは、管理者が許可した機能のみ有効になるが、管理者はすべての機能を使用して設定する権限があります。但し、ユーザーが管理者権限を与えられても管理者IDとパスワードを変更することはできません。

プロフィール設定

選択したユーザーにビデオプロフィールの詳細設定を制御できる権限を付与します。

カメラ設定

選択したユーザーにカメラ映像の詳細設定を制御できる権限を付与します。

アラーム出力

選択したユーザーにアラーム出力権限を付与します。アラーム出力権限を持つユーザーは、アラームをすることができます。

PTZ

選択したユーザーに[ライブ]モードでPTZを制御できる権限を付与します。

プロフィールアクセス

[初期値]に設定すると、基本プロフィールでのみ映像を確認することができ、[全体]に設定するとすべてのプロフィールで映像を確認することができます。

現在のユーザー入力

1. 使用する現在のユーザーアカウントのラジオボタンを選択します。現在のユーザーアカウントが入力できる状況に変更されます。
2. [使用]カラムでチェックボックスをチェックします。
3. [名前]と[パスワード]カラムにIDとパスワードを入力します。
4. [オーディオ入力]、[オーディオ出力]、[アラーム出力]カラムで許可する機能をそれぞれ選択して[Profile]カラムで許可するプロフィールタイプを選択します。(一部カメラでは[オーディオ入力]、[オーディオ出力]、[アラーム出力]に対する設定機能に対応しません。)
5. 現在のユーザーアカウントの入力を完了したら、ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
6. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。

参考事項

- 現在のユーザーアカウントが10つ未満の場合、[追加]ボタンをクリックして現在のユーザーアカウントを追加することができます。

現在のユーザー修正

1. 修正する現在のユーザーアカウントのラジオボタンを選択します。
2. 機能設定を変更した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。

3. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。変更された現在のユーザー情報が保存されます。

現在のユーザー削除

1. 削除する現在のユーザーアカウントのラジオボタンを選択した後、[削除]ボタンをクリックします。
 2. ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
 3. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。選択した現在のユーザー情報が削除されます。
-

日付&時間

カメラの現在システム時間を確認してタイムゾーンによって時間設定を変更したり、PC時間またはNTPサーバーと同期化してシステム時間を設定することができます。

現在のシステム時間

カメラのシステム時間が表示されます。既存に設定しておいたシステム時間が表示されます。

タイムゾーン

カメラの時間をグリニッジ標準時(GMT)を基準に設定します。

タイムゾーン

お望みのタイムゾーンを選択して真下の[適用]ボタンをクリックします。

サマータイム

サマータイムを使う地域を選択する場合には、[サマータイム]メニューが表示されます。選択したタイムゾーンのサマータイム開始時間と終了時間が表示されます。[サマータイム]を[有効]に選択すると、該当地域のグリニッジ標準時より一時間早い時間に表示されます。

参考事項

- ユーザーのPC時間がサマータイムを自動的に適用するよう設定されている場合、カメラのウェブビューアーの[サマータイム]は自動的に[有効]と選択され、ユーザーが任意に変更することができません。

システム時間設定

カメラの時間をユーザーが手動で設定したり、NTPサーバーと同期化して設定することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。

手動

カメラの現在時間をユーザーが任意で入力したり、現在使用中のPC時間と同期化することができます。

- [年-月-日]と[時:分:秒]で任意に時間を入力してシステム時間を設定します。
- [PCウェブビューアと同期化]を選択すると、PC viewerの時間とシステム時間が同期化されます。[PCウェブビューアと同期化]を選択した場合、PCとカメラ両方ともタイムゾーンをそれぞれ設定する必要があります。

NTPサーバーと同期化

NTP (Network Time Protocol)サーバーの時間とシステムの時間が同期化されます。初期値に5つのNTPサーバーアドレスが入力されています。アドレス入力をクリックすると、NTPサーバーアドレスを変更することができます。

IP&ポート

IPアドレスとポート値を入力します。[IPアドレス]タブでは、IPv4とIPv6を設定することができます。[ポート]タブでは、各プロトコルのポート値を設定することができます。設定を完了した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。[適用]ボタンをクリックすると、カメラ・ウェブビューアーに再度アクセスする必要があります。

IPv4 設定

IPv4タイプを使用してネットワーク通信を有効にした場合に使用する属性のIPタイプ、MACアドレス、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS情報を確認したり変更することができます。

IPタイプ

IP接続タイプを選択します。IPアドレスを固定的に使用する場合には、[手動]に設定してすべての情報を入力します。動的IPを使用する場合、[DHCP]に設定してDNSアドレスのみ入力します。

- 手動：IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS1、DNS2を直接入力して設定します。
- DHCP：DNS1、DNS2を設定します。

MACアドレス

カメラのMACアドレスが表示されます。

IPアドレス

現在、設定されたIPv4のアドレスが表示されます。[IPタイプ]を[手動]に設定すると、IPアドレスを変更することができます。

サブネットマスク

設定されたIPアドレスのサブネットマスクが表示されます。[IPタイプ]を[手動]に設定すると、サブネットマスクを変更することができます。

ゲートウェイ

設定されたIPアドレスのゲートウェイが表示されます。[IPタイプ]を[手動]に設定すると、ゲートウェイを変更することができます。

DNS設定(DHCP)

[IPタイプ]を[DHCP]に設定した時に表示されます。[使用]を選択した場合、DNSアドレスが自動的に割り当てられます。

DNS1/DNS2

DNS (Domain Name Service)サーバーのアドレスが表示されます。

ホスト名

ホスト名を読み込むためのONVIF GetHostname操作に使用される名です。初文字は必ず英語のアルファベットで、アルファベット、数字、ハイフン (-) のみを入力できます。また、最大63文字まで入力できます。カメラのデバイス名が初期値に入力されており、必須入力値ではないため値を設定する必要はありません。

参考事項

- [ネットワーク]>[HTTPS]>[セキュア接続方式]>[HTTPS (セキュリティ接続使用)]で[ホスト名の変更]オプションを選択した場合、ホスト名が証明書に設定された一般名 (Common Name)に変更され表示されます。

MTU

ネットワークインターフェースでデータを伝達できる最大伝送サイズ(maximum transmission unit, MTU)を設定します。MTU値は、最小1280オクテットから最大1500オクテットまで設定できます。小さすぎる値を設定する場合、映像再生が遅延されることがあるため、ユーザーネットワーク環境に適するMTU値を設定する必要があります。

ICMP (Timestamp)

ICMP (Internet Control Message Protocol) タイムスタンプ要請メッセージを使用するなら、[有効]を選択してください。タイムスタンプを使用して両システム間の往復時間または時間差を計算できます。ICMP (Timestamp)オプションは基本的にアクティブ化されています。

IPv6 設定

IPv6はIPv4よりデータの処理速度、同時データ処理容量、インターネットアドレスのシステムなどを拡張した次世代インターネットアドレスのシステムです。IPv6を有効にするためには、[使用]を選択します。IPタイプ、IPアドレス、Prefix、ゲートウェイを設定することができます。IPインストーラーでカメラ型名を選択すると、IPv4やIPv6アドレスの中で選択することができ、ウェブブラウザにIPv6アドレスを入力してアクセスすることができます。

IPタイプ

IP接続タイプを選択します。初期値は[初期値]です。この時にDHCPが見つからないと、自動に前の設定値に変更されます。

- DHCP：DHCPで与えられたIPv6アドレスが表示されます。
- 手動：ユーザーが任意に設定したIPv6アドレスを入力することができます。
- 初期値：初期値に設定されているIPv6アドレスが表示されます。

参考事項

- 設定を変更して[適用]ボタンをクリックすると、ウェブブラウザが閉じられます。後ほど、変更したIPに再度アクセスしてください。

IPアドレス

IPv6アドレスを入力します。

Prefix

IPの範囲を設定することができる値です。[IPタイプ]が[初期値]の場合、[Prefix]値は64です。[手動]の場合には、[Prefix]値を変更することができます。

ゲートウェイ

[IPタイプ]を[手動]に設定した時に表示されます。ユーザーが直接にゲートウェイアドレスを入力します。

ポート

ポートは、システムでデータを送受信する時に使用する位置を意味します。[ポート]タブをクリックして該当項目を設定した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。映像の保安強化のためにHTTPS、RTSP使用をお勧めします。

参考事項

- ポート設定時、0～1023または3702, 4520, 49152は使用できません。

HTTP

ウェブブラウザを用いてカメラにアクセスする時に使用されるHTTPポートです。初期値は80(TCP)です。設定可能な範囲は1024～65535です。HTTPポートを変更する時、ウェブブラウザが閉じられます。再アクセスする時には、新たに設定したHTTPポートをIPアドレスの後に入力してアクセスしてください。HTTPポートが80の場合には、ポートNo.をスキップすることができます。(例：カメラIPアドレス：192.168.1.100、HTTPポート：8080の場合 -> http://192.168.1.100:8080)

HTTPS

HTTPより保安が強化されたバージョンです。SSLでHTTPSモードを設定する時に使用することができます。初期値は443(TCP)です。設定可能な範囲は1024～65535です。

RTSP

RTSP (Real Time Streaming Protocol)タイプで映像を伝送するためのポートで、初期値は554です。設定可能な範囲は1024～65535です。

タイムアウト

タイムアウトを有効にするためには、[使用]を選択します。RTSPタイプに接続した時、一定時間反応がない場合にはポート接続を再設定します。

PTZ設定

カメラのPTZプリセット位置を設定してスウィング、グループ、ツアー、トレース、オートランなどの詳細機能を設定することができます。(一部のカメラは[トレース]機能をサポートしていません。)設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

プリセット

PTZ独占制御

[PTZ独占制御]を選択すると、複数のユーザーがウェブビューアーに接続して同時にPTZを制御する場合、当該ユーザーにPTZ制御権限を優先に付与して他のユーザーの制御コマンドを制限します。

PTZカメラのプリセット位置を設定できます。

プリセット設定

- 下記のどおりにカメラの位置を調整します。
 - ⊕ボタンをマウスでドラッグすると、カメラが平移とチルトに移動します。
 - ズーム棒で⊕ボタンをクリックして画面をズームインしたり、●ボタンをクリックして画面をズームアウトして映像倍率を選択します。
 - ⤴ボタンをクリックしてフォーカスを近く(near)移動したり、⤵ボタンをクリックしてフォーカスを遠く(far)移動します。
 - カメラのフォーカスを自動で一度合わせるには、🔍ボタンをクリックします。
 - [プリセット設定]ボタンをクリックします。
 - [プリセット設定]のダイアログボックスから[No.]で設定したいプリセットNo.を選択します。
 - [名前]に該当プリセット名を入力します。プリセット名は、英数字のみ入力することができます。
 - [OK]ボタンをクリックします。
- 追加したプリセットが[プリセット設定]リストに表示されます。プリセットリストで該当プリセットの詳細を設定することができます。

プリセット削除

- [プリセット設定]のプリセットリストで削除するプリセットのチェックボックスを選択した後、[削除]ボタンをクリックします。

ホームへ戻る

- [ホームへ戻る]ボタンをクリックします。

ホーム設定

- 下記のようにホームに設定するカメラ位置を調整します。
 - ⊕ボタンをマウスでドラッグすると、カメラが平移とチルトに移動します。
 - ズーム棒で⊕ボタンをクリックして画面をズームインしたり、●ボタンをクリックして画面をズームアウトして映像倍率を選択します。
 - ⤴ボタンをクリックしてフォーカスを近く(near)移動したり、⤵ボタンをクリックしてフォーカスを遠く(far)移動します。
 - カメラのフォーカスを自動で一度合わせるには、🔍ボタンをクリックします。

2. [ホームを設定する]ボタンをクリックします。

ウォッシャーを実行する

- [ウォッシャー実行]ボタンをクリックします。
外部に付着されたウォッシャーが動作してカメラレンズを洗い流します。ウォッシャーを実行するには、ウォッシャー位置をまず設定する必要があります。ウォッシャー位置を設定するには、[ウォッシャー位置設定]をクリックしてください。

ウォッシャー位置を設定する

- [ウォッシャー位置設定]ボタンをクリックします。
ウォッシャー位置がプリセット88番に設定されます。[プリセット設定]リストにウォッシャー位置が追加されたことを確認できます。

プリセット設定

プリセットリストを確認して各プリセット別に詳細設定を修正したり削除することができます。

番号

[プリセット設定]のダイアログボックスで入力したプリセット番号です。

名前

[プリセット設定]のダイアログボックスで入力したプリセット名です。

接続アクション

カメラが設定されたPTZプリセット位置へ移動した後、カメラが実行するアクションを設定できます(カメラ仕様によって対応するオプションが異なる場合があります)。スイング機能を実行してる場合、フォローアップアクション機能は動作しません。

- off : カメラが設定されたPTZプリセット位置へ移動した後、どんな動作もしません。
- オートラン : [オートラン]タブで設定した動作が自動に実行されます。オートラン[モード]で[off]を選択したり、オートラン動作がない場合にはプリセット実行状況が維持されます。(グループまたはツアー機能でプリセットが実行されると、適用されません。)
- オートトラッキング : [トラッキング時間]カラムで設定した時間だけオートトラッキングを実行します。
- オートトラッキング > ホームへ : オートトラッキング動作実行後、PTZホーム位置へ戻ります。ホーム位置を設定する方法はホーム設定 (ptzInfoSetup.html#set_home)を参照してください。
- オートトラッキング > オートラン : オートトラッキング動作を実行した後、事前に指定した動作をオートランします。オートランする動作を設定する方法はオートラン (ptzInfoSetup.html#autorun)を確認してください。
- 映像分析 : ビデオ映像分析の動作が実行されます。
- ワイパー : カメラに装着されたワイパーが往復動作を3回行います。
- ホームへ戻る : カメラPTZをホームに移動します。
- デイ/ナイトモード > デイ : 設定されたPTZプリセット位置にカメラが移動すると、すべての画像プリセットのIRが無効になり(IRがある場合)、デイ/ナイトモードが[デイ]に設定されます。プリセットアクションが繰り返されるグループや

ツアー機能では[デイ/ナイトモード>デイ]のフォローアップアクションが適用されません。

- デイ/ナイトモード>ナイト：設定されたPTZプリセット位置にカメラが移動すると、すべての画像プリセットのIRが有効になり(IRがある場合)、デイ/ナイトモードが[ナイト]に設定されます。プリセットアクションが繰り返されるグループやツアー機能では[デイ/ナイトモード>ナイト]のフォローアップアクションが適用されません。

トラッキング時間

[接続アクション]で[オートトラッキング]を選択した場合、オートトラッキングを実行するトラッキング時間を設定します。

移動

設定ページに移動して詳細オプションを確認したり設定することができます。

- カメラ設定：[ビデオ&オーディオ]>[カメラ設定]ページに移動します。選択したプリセット周囲環境に適するようにカメラ設定を変更することができます。
- モーション検知：[分析]>[モーション検知]ページに移動します。[モーション検知]ページで[タイプ]オプションの中で[プリセット]を選択すると、プリセット別にモーション検知イベントをそれぞれ設定することができます。
- 対象物検知：[分析]>[対象物検知]ページに移動します。[対象物検知]ページで[タイプ]オプションの中で[プリセット]を選択すると、プリセット別に対象物検知イベントをそれぞれ設定することができます。
- IVA：[分析]>[IVA]ページに移動します。[IVA]ページで[タイプ]オプションの中で[プリセット]を選択すると、プリセット別にIVA(インテリジェントビデオ解析)イベントをそれぞれ設定することができます。

スウィング

スウィングは2つのプリセット区間をカメラが往復する機能です。

参考事項

- スウィング機能を使用するには、最小2つ以上のプリセットが追加されていなければなりません。[\[プリセット\]](#)タブでプリセットを追加したり修正することができます。

スウィング設定

起点プリセット番号

スウィング動作を開始する起点プリセットNo.を選択します。

終点プリセット番号

スウィング動作を終了する終点プリセットNo.を選択します。

速度

開始プリセットから終了プリセットに移動する時の移動速度です。

値が大きい数字に設定するほど、開始プリセット位置から終了プリセット位置に素早く移動します。

切替時間

開始プリセットと終了プリセット位置でカメラがそれぞれ止まって待機する時間です。

例えば「3」を入力した場合、開始プリセット位置で「3」を滞留してから終了プリセット位置にカメラが移動します。

スウィングモード

開始プリセットから終了プリセットに往復で移動する時、カメラの平移やチルト動作だけで移動するか平移とチルトのすべての動作で移動するか選択します。

スウィング設定

1. [開始時間プリセットNo.]カラムでスウィングを開始するプリセットNo.を選択します。
2. [終了時間プリセットNo.]カラムでスウィングを終了するプリセットNo.を選択します。
3. [速度]カラムで開始プリセットから終了プリセットまで移動する移動速度を入力します。
4. [切替時間]カラムで開始プリセットでどれだけ滞留してから終了プリセットに移動するかプリセットの持続時間を入力します。
5. [スウィングモード]カラムでスウィング動作モードを設定します。例えば、平移方向だけにプリセットで移動するには[パン]を選択します。

スウィング開始

- スウィング動作を開始するには、[開始]ボタンをクリックします。

スウィング中止

- スウィング動作を中止するには、[中止]ボタンをクリックします。

グループ

グループ機能は、すでに指定した複数のプリセットをグループ化して連続的に読み込む機能です。

6つのグループまで設定可能で、グループごとに128つのプリセットまで保存することができます。

参考事項

- グループ機能を使用するには、プリセットが追加されていなければなりません。[\[プリセット\]タブ](#)でプリセットを追加することができます。

グループ設定

プリセット番号

グループに保存するプリセットNo.を選択します。

速度

プリセット間の移動速度、つまり次のプリセット位置に移動する時にカメラのモーション速度を入力します。

値が大きい数字に設定するほど、現在のプリセット位置から次のプリセット位置に素早く移動します。

切替時間

各プリセット位置での持続時間を入力します。

例えば、1番プリセットで持続時間を「3」に選択すると、1番プリセット位置で3間滞留してから次のプリセット位置に移動します。

グループ1設定

1. グループ1を設定するには、グループのドロップダウンリストで「1」を選択します。
2. [プリセットNo.]カラムで「グループ1」に追加するプリセットNo.を選択します。
3. [速度]カラムで設定中のプリセット位置から次のプリセット位置にカメラが移動する速度を入力します。
4. [切替時間]カラムで設定中のプリセット位置にカメラがどれだけ滞留してから次のプリセット位置に移動するか持続時間を設定します。
5. [適用]ボタンをクリックします。

グループ設定値削除

1. グループのドロップダウンリストで既存に設定した値を初期化するグループNo.を選択します。
2. [削除]ボタンをクリックします。

グループ動作開始

1. グループのドロップダウンリストで動作するグループNo.を選択します。
2. [開始]ボタンをクリックします。

グループ動作中止

1. 現在、動作中のグループを中止するには[中止]ボタンをクリックします。

ツアー

ツアー機能は、既に指定したプリセットの集合であるグループを連続して順に呼び出す[ベーシック]モードと、グループのみでなくプリセット、スウィング、トレース、ホームなど利用者が組み合わせた動作を連続して順に呼び出す[拡張]モードがあります。

参考事項

- ツアー機能の[ベーシック]モードを使用するには、グループが設定されている必要があります。
- ツアー機能の[拡張]モードを使用するには、連続して呼び出したいプリセットやグループ、スウィング、トレース、ホームの動作が設定されている必要があります。

ツアー設定

ツアー動作モードは、[モード]で[ベーシック]と[拡張]のうち、どちらかを選択できます。

モードを変更すると、それまで設定されたすべてのツアー情報が削除されます。

ベーシックモード

ベーシックモードは、設定したグループを順に呼び出します。

グループ番号

連続して呼び出すグループ番号を順に選択します。[モード]で[ベーシック]を選択した場合に表示されます。

切替間隔

各グループでの滞在時間を入力します。

例えば、1番グループで[切替間隔]を[3]と入力すると、1番グループで3秒間滞在し、それから次のグループへ移動します。

ベーシックモードでツアーを設定する

グループ1、グループ2、グループ3を順に呼び出してカメラを移動させるには、次のように設定します。

1. [グループ番号]のドロップダウンリストで[1]を選択します。
2. [切替間隔]の列で、[グループ1]でカメラが滞留する時間を設定します。
3. [グループ番号]のドロップダウンリストで[2]を選択します。
4. [切替間隔]の列で、[グループ2]でカメラが滞留する時間を設定します。
5. [グループ番号]のドロップダウンリストで[3]を選択します。
6. [切替間隔]の列で、[グループ3]でカメラが滞留する時間を設定します。
7. [適用]ボタンをクリックします。

拡張モード

拡張モードは、設定したプリセット、グループ、スウィング、トレース、ホームの動作を順に呼び出します。

項目

連続して呼び出す動作を順に選択します。[プリセット]、[スウィング]、[グループ]、[トレース]の各タブで設定した動作の項目がドロップダウンリストに表示されます。[拡張]を選択した場合に表示されます。

詳細項目

[項目]で選択した動作の詳細を選択します。[プリセット]、[スウィング]、[グループ]、[トレース]の各タブで設定した各機能の詳細がドロップダウンリストに表示されます。[モード]で[拡張]を選択した場合に表示されます。

切替間隔

[項目]で選択した各動作での滞留時間を入力します。

例えば、[項目]で[プリセット]を選択し、[詳細項目]で[1番プリセット]を選択して[切替間隔]を[3]と入力すると、カメラが1番プリセットの位置で3秒間滞留し、それから次の動作を実行します。

拡張モードでツアーを設定する

プリセット1の位置からホームへ移動してスウィング3の動作を実行するには、次のように設定します。

1. [項目]のドロップダウンリストで[プリセット]を選択して、[詳細項目]で[1]を選択します。
2. [切替間隔]の列で、プリセット1の位置でカメラが滞留する時間を設定します。
3. [項目]のドロップダウンリストで[ホーム]を選択します。
4. [切替間隔]の列で、カメラがホームで滞留する時間を設定します。
5. [項目]のドロップダウンリストで[スウィング]を選択して、[詳細項目]で[3]を選択します。
6. [切替間隔]の列で、スウィング3の動作を実行する時間を設定します。
7. [適用]ボタンをクリックします。

ツアーの設定値を初期化する

- [削除]ボタンをクリックすると、設定したツアー値がすべて削除され、初期化されます。

ツアー機能を開始する

- [開始]ボタンをクリックします。設定した動作を順に呼び出しながらカメラが移動します。

ツアー機能を中止する

- [中止]ボタンをクリックします。ツアー機能が中止します。

オートラン

オートランはユーザーが一定時間カメラを操作しない場合、事前に指定した動作を自動に実行する機能です。

モード

自動に実行する機能を選択した後、詳細設定を指定することができます。(スウィング機能では適用されません。)

[オートランの有効化]を選択すると、プリセット、ホーム、トレース、スウィング、グループ、ツアーなどが動作していても、[切替間隔]で設定した滞留時間が経過してから[オートラン]が実行されます。

- off：オートラン機能を使用しません。
- ホーム：ホームポジションにカメラが移動します。ホームポジションは[プリセット]タブで設定することができます。
- プリセット：該当プリセットNo.に移動します。プリセットに移動する時間と移動するプリセット位置No.を設定することができます。
- スウィング：スウィング動作を自動に実行します。スウィング動作が自動に実行される時間とスウィングモードを設定することができます。
- グループ：グループ動作を自動に実行します。グループ動作が自動に実行される時間とグループNo.を設定することができます。グループの詳細動作は[グル

ープ]タブで設定することができます。

- ツアー：ツアー動作を自動に実行します。
- トレース：トラッキング動作を自動に実行します。トラッキング動作が自動に実行される時間とトラッキングNo.を設定することができます。トラッキングの詳細機能は[トレース]タブで設定することができます。
- オートパン：平移方向に360°回転する動作で自動に実行します。自動に実行される時間とカメラが平移方向に回転する速度とチルト固定角度を設定することができます。例えば、チルト角度を「30」に設定した場合、チルト角度は30°に維持されます。
- スケジュール：設定した曜日と時間に設定した動作が自動に動作するように設定することができます。分単位まで設定することができます。初期値はホームポジションです。

スケジュールどおりカメラのオートラン設定

1. [モード]で[スケジュール]を選択します。
2. カメラが自動に動作する時間をクリックします。
3. [スケジュール]のダイアログボックスの[モード]で自動に実行される動作を選択します。選択したモードによって詳細オプションが異なります。各オプションを設定します。
4. [OK]ボタンをクリックします。

オートラン動作が設定された時間がタイムテーブルに表示されます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定した時間がすべて削除されます。

PTZ制限

カメラのパンとチルトモーションが制限された範囲でしか動けないように設定することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

参考事項

[パン&チルト範囲制限]で[有効]を選択してPT limit機能を有効にすると、制限された範囲でしかプリセットを設定することができません。

PT limit機能を使用する前に設定したパンとチルトモーションの範囲を超過して設定したプリセットがある場合、プリセットは初期設定どおりに動作します。

PTZ調整

カメラのパン、チルト&ズーム動作を調整することができます。

PTZ調整

-  アイコンをマウスでドラッグすると、カメラがパンとチルトに移動します。
- ズーム棒で[+]ボタンをクリックして画面をズームインしたり、[-]ボタンをクリックして画面をズームアウトして映像倍率を選択します。
-  アイコンをクリックしてフォーカスを近く(near)移動したり、 アイコンをクリックしてフォーカスを遠く(far)移動します。
- カメラのフォーカスを自動で一度合わせるには、 ボタンをクリックします。

パン&チルト範囲制限

パンやチルト動作の範囲を制限するには、[有効]を選択します。設定された範囲内でしかパンとチルトは動作しません。

モード

制限範囲を設定する動作を選択します。

動作

パンとチルトが動作する最大範囲を設定します。

パンとチルト動作の制限範囲設定

1. [開始]ボタンをクリックして設定を開始します。
2. [進入]ボタンをクリックすると、カメラの映像画面に開始点の位置が表示されます。
PTZを調整しながら制限範囲の開始点位置を設定します。
3. [進入]ボタンをクリックすると、カメラの映像画面に最終点の位置が表示されます。
PTZを調整しながら制限範囲の最終点位置を設定します。
4. [進入]ボタンをもう一度クリックします。

[停止]ボタンをクリックすると、現在設定中の値をすべて削除します。[開始]ボタンをクリックして動作制限範囲を再設定することができます。

カメラ設定

カメラが設置された環境で最適の映像を撮影するようにカメラの設定を変更することができます。様々な環境に適合した画像プリセットを基本的に提供し、ユーザーが直接にカメラの設定値を指定することもできます。カメラのプレビュー画面で設定した値によって、カメラの映像がどう表示されるか確認することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。設定を変更した後、[適用]ボタンをクリックせずにタイムアウト時間(240秒)が経過すると、設定値が変更前に戻ります。

比較ビュー

カメラ映像の設定値を変更する前の映像と設定値を変更した後の映像を[変更前]パネルと[変更後]パネルで同時に確認できます。
PTZカメラの場合、[表示]をクリックすると[変更前]パネルにカメラの映像画面ではなくPTZ制御パネルを表示します。また[更新]ボタンをクリックすると、[変更前]パネルのオリジナル映像を最も最近に適用した値でアップデートします。

PTZ調整

カメラのパン、チルト&ズーム動作を調整することができます。

PTZ調整

-  アイコンをマウスでドラッグすると、カメラがパンとチルトに移動します。
- ズームバーを調整して映像の倍率を調整します。もしくは  アイコンをクリックして画面をズームインしたり、 アイコンをクリックして画面をズームアウトして映像の倍率を選択します。
-  アイコンをクリックしてフォーカスを近く(near)移動したり、 アイコンをクリックしてフォーカスを遠く(far)移動します。
- カメラフォーカスを自動に一回合わせるには、 アイコンをクリックします。
- 北側に設定する方向に画面の中央を位置させてから、 (北側設定)ボタンをクリックすると、該当位置を北側に変更します。(北側設定ボタンは[OSD]タブをクリックすると、表示されます。)

タイプ

すべてのプリセットに同じカメラ設定するには、[グローバル]を選択します。PTZプリセット別にそれぞれのIVA(インテリジェントビデオ解析)を設定するには、[プリセット]を選択します。プリセット設定ページでプリセットを設定した場合のみ、[プリセット]オプションが有効になります。[プリセット]を選択してプリセット別にカメラ設定を指定する場合、詳細カメラ設定項目中の一部項目は設定することができません。

センサーモード

カメラのCMOSセンサーが1秒に何フレーム(fps)を撮影するか設定します。

- センサーモードのオプションを変更すると、[カメラ設定]で設定したすべての値が初期化されます。
- センサーモード値は、画像プリセットごとにそれぞれ異なる設定ができません。フレームレートは、すべての画像プリセットに等しく適用されます。
- センサーモードで設定したフレーム数に応じて、[Basic]>[ビデオプロファイル]>[フレームレート]の最大値が異なります。

画像プリセットモード 画像プリセットが様々な目的別に適用されます。カメラを使用する環境に合わせて画像プリセットを選択します。

- ユーザー設定プリセット1：ユーザーが設定したどおりに映像を表示する時に使用します。
- ユーザー設定プリセット2：ユーザーが設定したどおりに映像を表示する時に使用します。
- 屋外昼間：屋外、昼間状況で引かれなく鮮やかな映像を表示したい時に使用します。
- 屋外夜間：屋外、夜間、低照度状況でノイズを減少させて暗いエリアを鮮明に表示したい時に使用します。
- 屋内逆光：屋内の逆光補正状況で屋内外が両方識別できる映像に表示したい時、使用します。
- 屋内の明るい照明：屋内照明状況で鮮やかな画質&ローフリッカーのために使用します。
- 車のナンバープレート：デイ/ナイトに車のナンバープレートをよく識別するために使用します。
- 鮮明な動画：カラーと鮮鋭度を上げるために使用します。

i 参考事項

- 画像プリセットモードを選択してからホワイトバランス、デイ・ナイトモードなどのようにカメラ画像の詳細設定を変更して[適用]をクリックすると、変更した値が該当の画像プリセット値で保存されます。初期値に戻すためには、[初期化]ボタンをクリックします。

SSDR

SSDRは暗い部分と明るい部分の明るさの差が激しい環境で、暗い部分の明るさのみを上げ、暗い領域の識別力を向上させる機能です。

SSDR

SSDRを有効にするためには、[有効]を選択します。

イベントスケジュール設定

ダイナミックレンジのレベルを調整します。レベルを上げるほど暗い部分の明るさが明るくなります。

D-レンジ

ダイナミックレンジの振幅エリアを選択します。

- 狭い: カメラの基本設定で、画質優先モードです。

- 広い: 識別力を向上させるモードで、明るい領域を暗くして飽和領域をよく見えるようにしたり、暗い領域を明るくして識別力を向上させます。[広い]モードに設定すると、同じ明るさの領域に対する画像では識別力が向上しますが、表現力は低下することがあります。

ホワイトバランス

いろいろな照明環境において、自然な色が再現できるようにホワイトバランスの調整が出来ます。（カメラの仕様により機能に差があります。）

モード

カメラを使用する環境によってホワイトバランスモードを選択します。

- 手動: 手で赤のゲインと青のゲインを調整することができます。赤が多く表示されると赤のゲインを下げ、青が多く表示されると青のゲインを下げます。緑が多く表示されると青色値/赤色値を共に上げます。
- ATW: カメラのホワイトバランスを自動に補正します。
- 屋外: カメラのホワイトバランスを屋外環境に最適化されるように補正します。
- 屋内: カメラのホワイトバランスを屋内環境に最適化されるように補正します。
- AWC: カメラを現在の照明環境でホワイトバランスの調整をおこない、調整を保持します。正しく調整を行うには、カメラに白い紙を映し[設定]ボタンを押してください。ホワイトバランスが調整されると、調整を保持します。照明の状態が変わった場合には再調整してください。
- NarrowATW: 2800 K~9000 K環境でカメラのホワイトバランスを自動に補正します。[ATW]モードよりカラーの温度範囲が狭いです。
- MERCURY: カメラのホワイトバランスを水銀灯照明環境に最適化されるように自動補正します。
- SODIUM: カメラのホワイトバランスをナトリウム灯照明環境に最適化されるように自動補正します。

赤のゲイン

赤のゲインを調整します。赤のゲインが高いと、画面に赤色が多く表示されます。赤色が多く表示されたら赤のゲインを下げます。

青のゲイン

青のゲインを調整します。赤のゲインが高いと、画面に赤色が多く表示されます。青色が多く表示されたら青のゲインを下げます。

i 参考事項

- 下記の場合には、ホワイトバランスが正しく動作しないことがあります。その場合には[AWC]モードでホワイトバランスを調整してください。
 - 透き通った空、夕方のように被写体の周囲環境が色温度の補正範囲から外れた場合
 - 被写体の周囲環境が暗い場合
 - カメラが蛍光灯を直接向いたり照明の変化が激しい場合

逆光補正

逆光で撮影された映像を補正することができます。[モード]で無効、BLC、HLC、WDRの中から選択することができます。選択した逆光補正モードによって詳細設定を変更することができます。

BLC

BLC (Back Light Compensation)モードは、逆光で暗く撮影された映像にユーザーが特定エリアを設定して選択エリアの対象物がよく表示されるように補正します。

BLCレベル

低、中、高の中から選択することができます。レベルが高いと、設定したエリアの明るさがより明るくなります。

参考事項

- BLC設定時、15秒ぐらい緑ボックスが画面に表示されます。
- BLC設定時、誤動作を防ぐためにBLCエリアの上下間隔は最大60/最小40、左右間隔は最大60/最小30に制限されます。

HLC

HLC (High Light Compensation)モードは街灯や車のヘッドライトのように強い照明を効果的に遮断して強い照明の飽和によって車のナンバープレートなどの周囲にある物事が識別できないことを防止します。

HLCレベル

露出レベルを設定してハイライトエリアを調整します。

レベルが高いほど、補正に優れていてハイライトエリアを遮断するエリアに差があります。

マスク

マスクの適用有無を選択します。

- Off：遮断エリアが生成されません。
- On：一定の明るさ以上のエリアは常時遮断されます。
- 全日：とても明るい時やとても暗い時を除けて遮断エリアが生成されます。
- 夜間：とても暗くなる前まで遮断エリアが生成されます。

マスクカラー

遮断エリアカラーを設定します。

マスクトーン

遮断エリアトーンを設定します。

調光

画面の強い光エリアを検知して明るさを調整しながら、飽和エリアを減少させます。

i 参考事項

- 夜間に動作する時には、暗い環境で一定面積以上ハイライトが入射される場合のみ動作します。
- 夜間に動作する時、全体的に明るい条件か暗すぎる条件ではHLCが動作されません。昼間に動作する時、暗すぎる条件ではHLCが動作されません。
- HLC設定時、誤動作を防ぐためにHLCエリアの最小、最大サイズを設定します。

WDR

WDR (Wide Dynamic Range)モードは逆光環境で暗い部分と明るい部分をすべてよく表示させる方法です。カメラのデュアルシャッターを用いて一度は明るい部分がよく表示されるようにショートシャッターで、もう一度は暗い部分がよく表示されるようにロングシャッターで撮影して二つの映像の中でよく表示される部分だけを一つに合わせて表示させる方法です。WDRモードを使用する時、明るいエリアと暗いエリアの間にノイズが発生することがあります。



WDRモードオフ

WDRモードオン

WDRレベル

逆光補正のレベルを調整します。

自動

[有効]を選択すると、映像を分析して逆光補正が必要な場合、自動にWDRモードを有効にします。

ローライトオフ

[有効]を選択すると、低照度環境でWDRモードを自動にオフします。

白黒除外

[有効]を選択すると、B/Wモードが動作した時にWDRモードを自動にオフします。

i 参考事項

- WDRモードを選択すると、シャッター値が初期化されます。したがって画面が明るくなってから暗くなります。
- WDRモードを使用する時、フレームレートは半分に短縮されます。
- WDRモードはカメラが屋内に設置されている状態で、強い逆光がある環境で使用することをお勧めします。
- WDRモード時、明るい部分と暗い部分の間にノイズが発生することがあります。
- WDRモード時、モーションエリアでノイズが発生することがあります。
- WDRモード時、照明条件によって下記の現象が起きることがあるためWDRモードをオフにしてください。

- カラーの不自然な変化、画面の不自然な現象が起きる場合
- 画面の明るい部分にノイズが発生する場合
- 画面内に明るい部分の面積によってWDR性能差があるため、最適のWDR性能実現のために設置角度を調整してください。
- 最大値を増加させると、画面に不自然な現象が起きることがあります。
- 最適のWDR性能のために?出補正のアイリスを[自動]に設定することをお勧めします。

露出補正

カメラの撮影環境に合わせて露出を変化させることができます。被写体より背景が暗い場合、露出を低く設定すると被写体が正しく表示されます。逆に被写体より背景が明るい場合、露出を多く設定すると被写体が正しく表示されます。

明るさ

画面の明るさを調整することができます。数字が大きいほど画面が明るくなります。

最小シャッター

シャッターは環境によって露出を自動に設定することができます。最小シャッター～最大シャッターの範囲まで電子シャッターが動作します。最小シャッターは低速露出時間可能範囲の最小値を意味して長い露出時間の上限を設定します。選択した最小シャッターの値が[センサー]モードのfps値より小さい場合、暗い状況でフレームレートが短縮されることがあります。

最大シャッター

最大シャッターは高速露出時間可能範囲の最大値を意味して短い露出時間の上限を設定します。

ユーザー優先シャッター

露出時間の範囲内で優先的に動作する適正露出時間を設定します。

アンチフリッカー

撮影環境にある照明と周波数の不一致で発生する画面の揺れ現象を防止します。

SSNR

映像のノイズを除去します。(カメラの仕様により対応するオプションが異なる場合があります。)

- On/Off：SSNR機能の使用有無を設定します。[On]を選択すると、SSNRレベルを調整することができます。
- WISE NR：映像内に動く対象物があると、自動にノイズ削減レベルを調整して対象物の識別力を向上させます。
- WISE NR II：映像内に人や車両の動きが発生した場合、自動的にノイズ減殺レベルを調整し、動く物体の尾引き現象を減少させて識別力を向上させます。

SSNR 2D レベル

SSNR 2Dは、一つのフレームで隣接したピクセルを使用して映像のノイズを低下させます。SSNR 2D レベル値を設定します。[SSNR]を[On]や[WISE NR]に選択した場合、設定することができます。
レベルを上げるほどノイズは低減されますが、映像がぼやける可能性があります。

SSNR 3D レベル

SSNR 3Dは、複数フレームのピクセルを使用して映像のノイズを低下させます。SSNR 3D レベル値を設定します。[SSNR]を[On]や[WISE NR]に選択した場合、設定することができます。
レベルを上げるほど、ノイズは低減するが映像に残像が発生することがあります。

アイリス

アイリスのタイプを選択します。(カメラの仕様により対応するオプションが異なる場合があります。)

- DC(自動)：周囲環境の光量によってアイリスを自動に調整します。
- 手動：アイリスF値を手動に調整します。
- Pアイリス：ステッピングモーターでアイリスを調整します。様々な距離にある複数の対象物を同時にフォーカスを合わせることができて深い深度を持つことができます。

絞りF値

[アイリス]モードが[手動]の場合、有効になってアイリスF値を設定します。

AGC

AGC (Auto Gain Control)は暗い照明で被写体を撮影する時、映像Gainの感度を調整して明るさを調整することができます。

参考事項

- 最小シャッター、最大シャッターの設定範囲によって画面の露出を飽和することができます。
- WISE NR(SSNR 2DとSSNR 3D)モード設定後、適用/解除されるまでは一定時間がかかります。
- WISE NR(SSNR 2DとSSNR 3D)モード適用時、映像の識別力が向上される代わりにノイズが増加することがあります。
- 明るくてノイズが少ない環境では、あまりWISE NR(SSNR 2DとSSNR 3D)の効果がないです。
- WISE NR(SSNR 2DとSSNR 3D)設定時、映像のモーション検知は内部的にモーション検知機能を使用するためにモーション検知イベントの動作条件に従います。モーション検知の詳細設定は[分析] > [モーション検知]で確認することができます。
- AGC利用が多い場合、SSNRのSSNR 3D値が増加するため、映像が引かれることがあります。
- AGC動作時、画面にノイズが増加します。

デイ/ナイト

カメラを使用する環境に合わせて映像をカラーやB/Wに変更することができます。また切替時間を設定すると、ユーザーが設定した時間に合わせて映像をカラーやB/Wに変更することができます。

デイ/ナイト切替時には、モーション検知イベントやビデオ映像分析イベントを検知することができません。

モード

カメラがカラーやB/Wに変更されるタイプを選択します。(カメラの仕様により対応するオプションが異なる場合があります。)

- カラー：映像を常時カラーに出力します。
- 白黒：映像を常時B/Wに出力します。
- 自動：昼間にはカラーモード、夜間や低照度の場合にはB/Wに切り替えます。
但し、露出補正の[AGC]を[Off]、[デイ/ナイト]を[自動]に設定できません。
- 外部入力：アラーム入力ポートを外部デバイスと同期した場合、映像のカラーとB/Wを制御することができます。
- スケジュール：[カラー映像動作時間]で設定したスケジュールにデイ/ナイトが変更されます。

i 参考事項

- [外部入力]オプションはアラーム入力が入力がある場合のみ設定できます。アラーム入/出力は、[イベント]>[アラーム入/出力]で設定できます。

切替時間

デイ/ナイトを[自動]に選択した場合、設定した切替時間の間に明るさ条件が維持された時、映像をカラーやB/Wに変更します。

実行時間

カラーやB/Wに切り替え動作が起きる時間の間隔を設定します。[ユーザー指定]を選択すると、切替感度を直接設定できます。

カラー映像動作時間

カラーモードで動作されるスケジュールを設定します。[毎日]を選択して時間を設定すると、毎日該当時間にカラーモードに動作され該当時間を除いた残り時間はB/Wに動作されます。毎日同じ時間に設定したくない場合には[毎日]を選択解除して月、火、水、木、金、土、日曜日にそれぞれカラーモードの動作時間を設定することができます。

i 参考事項

- デイ/ナイト切替時、モーション検知イベントは動作しません。つまりモーション検知イベントを「有効」に設定してもデイ/ナイト切替時には検知されないという意味です。モーション検知イベントの使用有無は[分析]>[モーション検知]で設定することができます。

スペシャル

映像のシャープを調整したりコントラスト、カラー調整などを設定することができます。

DIS

DIS (Digital Image Stabilization)は風のような外部的な要因でカメラに振動が発生する場合、映像を自動に補正して安定的に画面を出力します。

i 参考事項

- DIS設定を変更すると、映像画面がズームアウトされたりズームインされることがあります。変更された映像に合わせて映像を分析できるように[分析]メニューで分析設定を変更してください。

シャープネス

映像の全判的なシャープを調整します。

シャープネスレベル

映像の全判的なシャープを調整します。[シャープネス]を[on]に設定すると、シャープネスレベルを設定することができます。

シャープネスレベルが高いほど、映像のシャープが強くて鮮明になります。

ガンマ

映像のコントラストを調整します。映像で最も明るい部分と最も暗い部分の格差を意味します。ガンマの数字が高いほど、明るさの差が確かに表れます。

コントラスト

映像の影コントラストを調整します。

カラーレベル

映像でカラーの強弱を調整します。

曇り除去

霧がかかったり天気が曇った時、映像を補正します。[自動]に設定すると、周囲環境を検知して自動に映像を補正します。[手動]に設定すると、ユーザーが周囲環境を見て直接補正量を設定することができます。

初期値は[off]に設定されています。

曇り除去レベル

曇り除去が[手動]の場合、有効になって曇り除去レベルを調整します。曇り除去レベルが高いと、映像がより鮮やかに表示されます。曇りレベルが低くて曇り除去レベルが高いと、画面が暗く表示されることがあります。

i 参考事項

- 曇り除去モードを[自動]に設定した場合、曇り量が減少すると曇り除去機能も共に減少します。曇り量が減少しても設定したレベルだけの機能を実行するには、曇り除去モードを[手動]に設定してください。
- 曇りレベルが低くて手動曇りレベルが高い場合、画面が真っ暗に表示されることがあります。
- [霧探知]設定で[曇り除去]機能を有効にすると、[曇り除去]モードが[自動]に変更されます。

OSD

カメラタイトルまたは日付と時間を映像に表示することができます。

カメラタイトル

カメラタイトルの表示有無を設定します。[有効]を選択すると、[追加]/[削除]ボタンが有効になります。

[追加]ボタンをクリックすると、リストにカメラの名称を入力できるフィールドが追加されます。カメラのタイトルを入力し、カーソルを動かして位置を設定します。(一部のカメラでは、[追加]ボタンをクリックすると、カメラタイトルを入力できるフィールドと位置を設定できるXとY座標入力フィールドが追加されます。)カメラタイトルは5つまで追加することができます。

カメラタイトルを削除するには、削除する名前を選択してから[削除]ボタンをクリックします。カメラタイトルを入力した後、画面上にどう表示されるのか確認するには名前を入力してから[プレビュー]ボタンをクリックします。

日付&時間

日付と時間を画面に表示するには、[有効]を選択します。日付表記タイプを選択した後、カーソルを動かして日付と時間表示位置を設定します。

サイズ

OSDのサイズを調整します。

カラー

OSDのカラーを設定します。

OSDテキスト透明度

OSDの透明度を設定します。

オーバーレイ

PTZ位置やプリセット名など、カメラ映像画面に表示するデータを選択します。

- PTZ位置：画面にPTZ位置表示有無を設定します。
- プリセット名：画面にプリセット名の表示有無を設定します。
- アジマス：現在、画面上で見ているエリアのアジマスを表示する機能です。機能設定時、E(東)/W(西)/S(南)/N(北)/NE(北東)/NW(北西)/SE(南東)/SW(南西)の8方向に表示して画面の右下に表示されます。

- 位置調整ができる項目(カメラタイトル、日付&時間、オーバーレイ画像、システム情報)の場合、固定された他のOSD項目と重なる場合には正しく画面に表示されないことがあります。(一部カメラの場合、[オーバーレイ画像]や[システム情報]オプションに対応していません。)

フォーカス

カメラのフォーカス動作タイプやカメラ初期化などを設定することができます。

モード

カメラのフォーカス動作タイプを設定します。

- マニュアル：カメラのフォーカスを手動に調整します。
- 自動：カメラのフォーカスが自動に調整されます。
- ワンショットAF：ユーザーイベント(オートフォーカスもしくはズーム動作)が発生する時、自動にフォーカスが一回調整されます。

デジタルズーム

デジタルズームを有効にするためには、[有効]を選択します。

デジタルズームの最大範囲

使用できる最大デジタルズームを設定します。[デジタルズーム]を[有効]に設定すると、デジタルズーム制限を設定することができます。

ズームモード

ズーム動作時、カメラのフォーカスが同期されるタイプを設定します。

- 自動：ズーム倍率に変更されてもフォーカスが合う状況を常時判断して修正し、フォーカスを維持しながらズーム動作します。
- マニュアル：設定されているフォーカストラックでズーム動作します。ズーム倍率に変更されると、フォーカスが合わなくなります。

ズームスピード

ズームモード機能を動作する時、ズームスピードを設定します。

レンズ初期化

レンズを手動で一度初期化したり、レンズが自動に初期化されるように初期化周期を設定することができます。

レンズを手動に初期化するには、[レンズ初期化]オプションで[手動]を選択して[初期化]ボタンをクリックします。自動初期化の周期を設定するには、1～7日まで設定したい時間を選択します。設定された時から設定された周期でレンズを初期化します。

参考事項

- オートフォーカスは画面の中央にある被写体を中心としてフォーカスを合わせるため、画面の周囲にある被写体はフォーカスが合わなくなります。
- オートフォーカス機能は、下記の条件では正しく動作しないことがあります。
 - 明るい照明やネオンサインなどのように点滅する照明がある場合

- 監視エリア内の照度が低い場合
 - 監視エリア内の照度が高すぎる場合
 - シャッターを遅く動作する場合
 - 被写体が暗い場合
 - 空&壁のように明暗差がない場合
 - 細い水平ラインを見つめる場合
 - 監視エリア内に遠距離物事と近距離物事が一緒にある場合
 - フォーカスモード中に[手動]に設定した場合、周囲の環境の変化によって焦点が異なることがあります。
-

スマートコーデック

スマートコーデックは、ユーザーが好む部分をROI領域に設定してROI領域の画質はユーザが設定したどおりに維持するが、その他のエリアは標準画質で管理して映像データサイズを減らす技術です。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

手動ROIエリア

ユーザーが直接カメラの映像画面でROI領域を設定することができます。画面にマウスをクリックしてドラッグすると、四角の形でROI領域が生成されます。ROI領域は最大5つまでで、エリアが重なると設定できません。[初期化]ボタンをクリックすると、設定したROI領域がすべて削除されます。

PTZ調整

カメラのパン、チルト&ズーム動作を調整することができます。

-  アイコンをマウスでドラッグすると、カメラがパンとチルトに移動します。
- ズーム棒で[+]ボタンをクリックして画面をズームインしたり、[-]ボタンをクリックして画面をズームアウトして映像倍率を選択します。
-  アイコンをクリックしてフォーカスを近く(near)移動したり、 アイコンをクリックしてフォーカスを遠く(far)移動します。
- カメラのフォーカスを自動で一度合わせるには、 ボタンをクリックします。

参考事項

- スマートコーデックの使用時には、[ビットレート制御方法]を[CBR]モードに選択してください。[VBR]モードでは、スマートコーデック機能を提供しません。
- スマートコーデックはビデオprofile別に使用有無を設定することができます。[Basic]>[ビデオプロファイル]で[ビットレート制御方法]を[CBR]に設定した後、[スマートコーデック]で使用有無を設定します。「ビデオprofile」ページで「スマートコーデック」を「無効」に設定すると、スマートコーデック機能は動作しません。

スマートコーデック設定 画質

ユーザーが設定したROI領域の画質レベルを選択します。設定した画質レベルでROI領域を確認することができます。ROI領域の画質レベルは標準画質よりはいつも高いです。

ワイズストリーム

ワイズストリームは、基本的に映像を分析して重要な領域の画質は維持しながら、その他の領域の画質を下げ、データのサイズを効果的に減らす機能です。カメラが撮影中の映像にモーションが多く発生しない場合、圧縮率を上げ映像のサイズを減らして帯域幅を節約します。再度モーションが発生すると、元の状況に戻して映像情報が損失されないようにします。画面上の変化が多い環境には、ワイズストリーム機能の使用を推奨しません。急激な画面の変化があった時に著しい画質の劣化を発生する可能性があります。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

ワイズストリーム

モード

ワイズストリームで映像をどのぐらい圧縮するか選択することができます。

- Off : ワイズストリーム機能を使用しません。
- 低～高 : ワイズストリームを使用して適用するビットレート減少レベルを選択します。

i 参考事項

- ワイズストリームの性能を最適化するには、[Basic] > [ビデオプロファイル]メニューで[ダイナミックGOV]と[ダイナミックFPS]を[有効]に設定してください。[ダイナミックGOV]と[ダイナミックFPS]機能を有効にすると、映像画質と1秒当たりのフレーム数を両方とも確保することができます。
- 下記の場合には、ワイズストリーム機能が正しく動作しないことがあります。
 - 急激に画面を切り替えると、切り替え時に著しい画質の劣化を発生する可能性があります。
 - 画面上の変化が多い環境には、ワイズストリーム機能は推奨できません。

DDNS

DDNS(Dynamic Domain Name Service)を利用すると、カメラのIPアドレスをユーザーが覚えやすい一般的なホスト名に変更されるように設定することができます。カメラのIPアドレスが198.160.0.100の場合、IPアドレスの代わりにhttp://ddns.hanwha-security.com/camera1のようなホスト名を入力してカメラにアクセスすることができます。カメラのIPアドレスが変更されてもDDNSアドレスでカメラにアクセスできるため便利です。

DDNSでは、Hanwha Vision専用のWisenet DDNSを使用したりパブリックDDNSを使用することができます。お望みのDDNS情報を入力した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。選択したDDNSに接続すると「成功」メッセージが表示され、接続されない場合「失敗」メッセージが表示されます。

参考事項

DDNSとルーターのポートフォワーディングを共に設定すると、DDNSサービスを使用することができます。ルーターのポートフォワーディング設定方法は、製品に含まれている取扱説明書を参照してください。UPnP検索機能が有効になると、DDNSを使用することができません。[ネットワーク]>[自動IP設定]で、[UPnP検索]を[有効]を選択すると、UPnP機能が有効になります。

DDNS

Off

DDNSを使用しない場合に選択します。

Wisenet DDNS

Hanwha Visionから提供するDDNSサーバーを使用する場合に選択します。Wisenet DDNSを有効にするためには、Wisenet DDNSのウェブサイト(<http://ddns.hanwha-security.com> (<http://ddns.hanwha-security.com>))で会員登録した後、[My DDNS]>[製品登録]で先に製品を登録する必要があります。

- サーバー名：有効にするDDNSサーバー名を入力します。
 - 製品ID：Wisenet DDNSサーバーに登録された製品のIDを入力します。
- UPnP(Universal plug and play)機能に対応するルーターを使用する時、[クイック接続]を選択すると外部からアクセスする時、自動にポートを開くように対応します。

参考事項

- ルーターがUPnP機能に対応しないか、[クイック接続]を使用せずにDDNSサーバーを使用するためにはルーターのポートフォワーディングを手動で設定してください。ルーターのポートフォワーディング設定方法は、製品に含まれている取扱説明書を参照してください。

パブリックDDNS

公開サイトから提供するDDNSサーバーを使用する場合に選択します。該当サイトでサービスに加入してから使用します。

- サーバー名：有効にするパブリックDDNSサーバーを選択します。
- ホスト名：DDNSサーバーに登録されたホスト名を入力します。

- ユーザー名：DDNSサーバー用のユーザー名を入力します。
 - パスワード：DDNSサーバー用のパスワードを入力します。
-

IPフィルタリング

特定IPへのアクセスを許可したり拒否するようにIPアドレスリストを作成することができます。IPv4とIPv6を区分してIPアドレスを管理します。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

- フィルタリングタイプ** [登録されたIPの接続制限]と[登録されたIPの接続許可]のフィルタリング条件は、すべてのIPアドレスに適用されます。
- 登録されたIPの接続制限：登録されたIPのアクセスを拒否します。
 - 登録されたIPの接続許可：登録されたIPのみアクセスを許可します。

参考事項

- アクセスを許可したIPを登録する時は、現在カメラにアクセス中のIPを必ず登録する必要があります。特に[Basic]>[IP & ポート]>[IPv6設定]を[使用]に選択した場合には、現在カメラにアクセス中のIPアドレスのIPv4とIPv6アドレスをすべて追加する必要があります。
- 現在、アクセス中のIPアドレスは[登録されたIPの接続制限]に登録することができません。

IPv4

IPv4タイプのアドレスリストでIPアドレスを追加したり削除することができます。IPアドレスは最大10個まで保存することができます。

IPv4アドレス追加

- [追加]ボタンをクリックします。IPv4アドレスを入力できるフィールドが生成されます。
- IPとPrefixの情報を入力します。入力した情報に対してフィルタリング範囲が表示されます。PrefixはIPの範囲を設定できる値で、IPv4の場合には1～32まで設定することができます。
- [使用]のチェックボックスにチェックすると、該当フィルタリング範囲に対してフィルタリングすることができます。
- すべての情報を入力した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックすると、入力した情報がリストに保存されます。

IPv4アドレス削除

- 削除するIPv4アドレスを選択します。
- [削除]ボタンをクリックします。
- 削除確認ポップアップで[OK]ボタンをクリックします。IPv4アドレスが削除されます。

参考事項

- マルチキャストに使用される224.0.0.0～239.255.255.254のアドレスは使用できません。

IPv6

IPv6タイプのアドレスリストでIPアドレスを追加したり削除することができます。
IPアドレスは最大10個まで入力することができます。

IPv6アドレス追加

1. [追加]ボタンをクリックします。IPv6アドレスを入力できるフィールドが生成されます。
2. IPとPrefixの情報を入力します。入力した情報に対してフィルタリング範囲が表示されます。PrefixはIPの範囲を設定できる値で、IPv6の場合には1～128まで設定することができます。
3. [使用]のチェックボックスにチェックすると、該当フィルタリング範囲に対してフィルタリングすることができます。
4. すべての情報を入力した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックすると、入力した情報がリストに保存されます。

IPv6アドレス削除

1. 削除するIPv6アドレスを選択します。
2. [削除]ボタンをクリックします。
3. 削除確認ポップアップで[OK]ボタンをクリックします。IPv6アドレスが削除されます。

HTTPS

セキュア接続方式を選択したり、認証局証明書をインストールすることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

セキュア接続方法

保安レベルを考えて使用環境に合うセキュア接続方式を選択します。HTTPS (HyperText Transfer Protocol over Secure Socket Layer)は、ハイパーテキスト伝送規約階層の下にあるSSLサブ階層でユーザーのページリクエストを暗号化、復号化する過程でデータを送受信します。したがって、保安上HTTPモードより安全だと考えられます。

HTTP(セキュリティ接続未使用)

HTTPに暗号化せずにデータを伝送する時に選択します。

HTTPS(セキュリティ接続使用)

HTTPSセキュリティ接続モードに接続する時に選択します。

証明書

登録した証明書リストが表示されます。HTTPS接続時に使用する証明書を選択します。

証明書は[ネットワーク]>[証明書管理]で登録でい、暗号化されないキーファイルが含まれた証明書のみリストで表示されます。

ホスト名の変更

[ホスト名の変更]オプションを選択すると、カメラホスト名を証明書の一般名(Common Name)と同じく変更します。カメラホスト名が証明書に設定された一般名(Common Name)と異なる場合、一部のセキュリティ検査ツールで製品の保安が弱いと判断されることがあります。

ホスト名は[Basic]>[IP & ポート]>[IPアドレス]>[IPv4 設定]>[ホスト名]で確認することができます。

[ホスト名の変更]は[証明書]で[デバイス証明書]を選択した場合のみ設定できます。

相互認証

保安強化のために相互認証を行うには、[相互認証]を選択します。

相互認証を行ってから、アクセス許可に対するオプションを選択できます。

- [全接続許可]: 相互認証の成功有無に関係なく相互認証を試したすべてのアクセスに対して接続を許可します。つまり、相互認証されなくてもカメラへのアクセスを許可します。
- [相互認証の接続のみ許可]: 相互認証に成功した場合のみカメラへのアクセスを許可します。

- [相互認証の接続のみ許可(Device IDの検証を含む)]：相互認証時、整合性確認のためにクライアントのデバイスID情報まで検証して認証される場合のみ接続を許可します。

[相互認証]は[証明書]で[デバイス証明書]を選択した場合のみ設定できます。

TLS設定

暗号化通信に使用するcipherモードやTLSバージョンを設定します。

Cipherモード

キー交換、認証、暗号化など、TLS暗号化通信に使用する様々なアルゴリズムを組み合わせて暗号スイート(cipher suites)を提供します。保安に優れている暗号スイートのみを使用するには、[安全な暗号スイートのみ使用]を選択します。保安に多少弱くても下位互換性のための暗号化スイートを使用するには、[互換される全暗号スイート使用]を選択します。[互換される全暗号スイート使用]を選択すると、安全な暗号化スイートと不安全な暗号化スイートをすべて含みます。

バージョン

暗号化通信に使用するTLSプロトコルバージョンを選択します。

[Cipherモード]で[安全な暗号スイートのみ使用]を選択すると、TLS 1.2やTLS 1.3だけを選択することができます。[互換される全暗号スイート使用]を選択すると、TLSのすべてのバージョンでお望みのオプションを選択することができます。(一部のカメラはTLS 1.3バージョンをサポートしていません。)

802.1x

ネットワークにアクセスする時、802.1xプロトコルの使用有無を選択して証明書をインストールすることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

IEEE 802.1x 設定

IEEE 802.1x

ネットワークにアクセスする時、IEEE 802.1xプロトコルを有効にするには[有効]を選択します。IEEE 802.1xは、IEEE 802.1というネットワークプロトコルグループの一部でポートベースのネットワークアクセス制御(port-based Network Access Control - PNAC)に関するIEEEの標準です。主に無線LAN(WIFI)環境でセキュリティを強化するために使用されます。

EAPタイプ

EAP (Extensible Authentication Protocol)は無線ネットワークとポイントツーポイントプロトコル(Point to Point Protocol)で規定された認証タイプに拡張しやすいように設計されたプロトコルです。LEAPタイプが保安に弱い認証タイプであるため、EAP-TLS、PEAPv0/MSCHAPv2を使用できない環境でのみ使用することをお勧めします。

- EAP-TLS : EAP-TLS (Transport Layer Security)は、サーバーとクライアント証明書を必要とする相互認証を行い、アクセスされてからの保安を考えて動的WEPキーを使用します。
- LEAP : LEAP (Lightweight Extensible Authentication Protocol)は証明書を要求せずに動的WEPキーだけを使用するため、必ず強力なパスワードを使用する必要があります。
- PEAPv0/MSCHAPv2: PEAP/MSCHAPv2 (Protected Extensible Authentication Protocol/Microsoft Challenge Handshake Authentication Protocol)認証はサーバー側の認証だけを行って作成されたEAP-TLSセッションでユーザーのID、パスワード基盤の認証を行います。

EAPOLバージョン

ネットワークスイッチで使用される[EAPOL] (EAP over LANs)のバージョンを[1]または[2]の中で選択します。

ID

[EAP-TLS]ではクライアント証明書IDを入力し、[LEAP]と[PEAPv0/MSCHAPv2]ではユーザーIDを入力します。

パスワード

[EAP-TLS]ではクライアントのプライベートキーパスワードを入力し、[LEAP]と[PEAPv0/MSCHAPv2]ではユーザーのパスワードを入力します。[EAP-TLS]で暗号化されていないキーファイルを使用する場合、入力する必要はありません。

参考事項

- アクセスされたネットワークデバイスが802.1xに対応しない場合、802.1xを[有効]に設定しても正しく動作しない場合があります。

証明書

CA証明書

証明書リストで希望するCA証明書を選択します。

表示されるCA証明書は、[ネットワーク]>[証明書管理]>[CA証明書]で登録したものです。

Client証明書

証明書リストで希望するクライアント証明書を選択します。クライアント証明書は、ユーザーが作成または適用して使用する証明書です。

表示されるクライアント証明書は、[ネットワーク]>[証明書管理]>[Client証明書]で登録したものです。

QoS

QoS(Quality of Service)は、ネットワーク網に過負荷(同時アクセス量増加、ネットワーク障害発生など)が発生した時にデータ伝送の優先順位を決めて設定された優先順位にデータ伝送品質を保障する機能です。QoSを適用するIPアドレスをIPv4またはIPv6タイプに入力することができます。設定を完了した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

IPv4

QoSを適用するIPアドレスをIPv4タイプに追加したり削除することができます。初期値でPrefixは32、DSCPは63に設定されています。

- Prefix : IPの範囲を設定できる値で、IPv4の場合には1～32まで設定することができます。
- DSCP : DSCP (Differentiated Services Code Point)は、QoSの優先順位を意味します。DSCP値は、0から63まで設定することができます。値が0に近いほど優先順位が低くなります。

参考事項

- マルチキャストに使用される224.0.0.0～239.255.255.254アドレスは使用できません。

IPv4アドレス追加

1. [追加]ボタンをクリックします。IPv4アドレスを入力できるフィールドが生成されます。
2. IP、Prefix、DSCP情報を入力します。
3. [使用]のチェックボックスにチェックすると、該当IPv4アドレスにQoSを適用することができます。
4. すべての情報を入力した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックすると、入力した情報がリストに保存されます。

IPv4アドレス削除

1. 削除するIPv4アドレスを選択します。
2. [削除]ボタンをクリックします。
3. 削除確認ポップアップで[OK]ボタンをクリックします。IPv4アドレスが削除されます。

IPv6

QoSを適用するIPアドレスをIPv6タイプに追加したり削除することができます。初期値でPrefixは128、DSCPは63に設定されています。

- Prefix : IPの範囲を設定できる値で、IPv6の場合には1～128まで設定することができます。
- DSCP : DSCP(Differentiated Services Code Point)は、QoSの優先順位を意味します。DSCP値は、0から63まで設定することができます。値が0に近いほど優先順位が低くなります。

IPv6アドレス追加

1. [追加]ボタンをクリックします。IPv6アドレスを入力できるフィールドが生成されます。
2. IP、Prefix、DSCP情報を入力します。
3. [使用]のチェックボックスにチェックすると、該当IPv6アドレスにQoSを適用することができます。
4. すべての情報を入力した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックすると、入力した情報がリストに保存されます。

IPv6アドレス削除

1. 削除するIPv6アドレスを選択します。
 2. [削除]ボタンをクリックします。
 3. 削除確認ポップアップで[OK]ボタンをクリックします。IPv6アドレスが削除されます。
-

SNMP

SNMP (Simple Network Management Protocol)は、ネットワーク管理プロトコルでネットワーク上のデバイスから情報を収集してネットワークを管理することができます。設定を完了した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

SNMP v1/v2c

SNMP v1プロトコルは、暗号化されていないため保安機能がほとんどありません。また、帯域幅を非常に多く使用するためデバイスが多い場合にはネットワーク管理できないことがあります。SNMP v2cプロトコルは、データと認証保安のためにアルゴリズムが追加され、SNMP v1より効率的に帯域幅を使用するようになりました。

SNMP v1

SNMP v1を有効にするためには、[有効]を選択します。

SNMP v2c

SNMP v2cを有効にするためには、[有効]を選択します。[SNMP v2c]を選択すると、[読み取りコミュニティ]と[書き込みコミュニティ]が有効になります。

読み取りコミュニティ

SNMP情報にアクセスするためのリード専用のコミュニティ名を入力します。

書き込みコミュニティ

SNMP情報にアクセスするためのライト専用のコミュニティ名を入力します。

SNMP v3

SNMP v3は認証タイプが変更されv1、v2cより保安が強化されてデータ変形なしに伝送することができます。また、承認されてないユーザーがデータにアクセスできないようにパケットを暗号化しました。

SNMP v3

SNMP v3を有効にするためには、[有効]を選択します。

パスワード

SNMP v3のユーザーパスワードを設定します。パスワードは8文字以上16文字まで使用することができます。初期設定されたパスワードは保安に弱いいため、製品をインストールしてからすぐ新しいパスワードに変更することをお勧めします。初期設

定されたパスワードによる保安&その他の問題に関する責任はユーザーにあるので
ご注意ください。

i 参考事項

- SNMP v3を有効にするには、「セキュア接続方式」を「HTTPS」モードに設定する必要があります。[ネットワーク]>[HTTPS] (ssl.html) > [セキュア接続方式]で[HTTPS(セキュリティ接続使用)]を選択してください。
- SNMP v3を無効にする場合、保安に問題が発生することがあります。

SNMPトラップ

SNMPトラップは、ネットワーク上にあるデバイスに特定なイベントが発生した時、管理システムにイベントを知らせる機能です。

SNMPトラップ

SNMPトラップを有効にするためには、[有効]を選択します。

コミュニティ

メッセージを受けるトラップコミュニティ名を入力します。

IPアドレス

メッセージを送るIPアドレスを入力します。

- 認証失敗通知：コミュニティ情報が正しくない場合、管理システムにあるイベント伝達有無を設定します。
 - ネットワーク接続通知：切断されたネットワークに再接続された場合、管理システムにあるイベント伝達有無を設定します。
-

自動IP設定

カメラIPを自動に設定することができます。同一のローカル網でカメラにアクセスできるIPアドレスを追加に割り当てるか、WindowsやMac OSでネットワークにアクセスされたカメラを確認できるように設定することができます。設定を完了した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

リンクローカルIPv4アドレス 同一のローカル網でカメラにアクセスできる追加IPを割り当てることができます。

自動設定

リンクローカルIPv4アドレスの自動設定を有効にするには、[有効]を選択します。

- IPアドレス：割り当てられたIPアドレスが表示されます。
- サブネットマスク：割り当てられたIPのサブネットマスクが表示されます。

UPnP検索 UPnP(Universal Plug and Play)プロトコルに対応するクライアントとOSで自動的にカメラを検索することができます。

UPnP検索

UPnP検索を有効にするためには、[有効]を選択します。

- ユーザーフレンドリ名：カメラの名前が表示されます。ユーザーフレンドリ名は、WISNET-型名-MACアドレスの手順に表示されます。

Bonjour Bonjourプロトコルに対応するクライアントとOSで自動的にカメラを検索することができます。Bonjourを初期値に対応するMac OSでは、SafariウェブブラウザのBonjourブックマークでアクセスされたカメラが表示されます。

Bonjour

Bonjourを有効にするためには、[有効]を選択します。

- ユーザーフレンドリ名：カメラの名前が表示されます。ユーザーフレンドリ名は、WISNET-型名-MACアドレスの手順に表示されます。

参考事項

- ブックマークが表示されない場合、PreferenceメニューのBookmarksを確認してください。

証明書管理

証明書を追加して削除することができます。CA証明書とClient証明書でそれぞれ分離して管理できます。

CA証明書は、CA (Certificate Authority、認証機関)で自体署名した証明書です。Client証明書は、ユーザーが作成または適用して使用する証明書です。

設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

Client証明書

ユーザー証明書をインストールしたり、削除することができます。ユーザーが証明書ファイルとキーファイルを持っている場合、登録できます。もしくは証明書の詳細情報を入力した後、証明書ファイルを作成することもできます。

自社で提供する[デバイス証明書]が基本に登録されており、この証明書は削除できません。①ボタンをクリックすると、証明書情報を表示します。

Client証明書の追加

1. [追加]ボタンをクリックします。
2. 証明書ファイルがある場合、[証明書追加]ダイアログボックスで[タイプ]オプションのうち、[Client]を選択して次を実行します。
 - 証明書名：証明書名を入力します。最大31文字まで入力でき、特殊文字、韓国語、漢字、空欄は入力できません。
 - 証明書ファイル：[...]をクリックした後、証明書ファイルを選択します。
 - キーファイル：[...]をクリックした後、認証キーファイルを選択します。
3. 証明書を直接作成するには、[証明書追加]ダイアログボックスで[タイプ]オプションのうち、[Self-signed]を選択して次を実行します。アスタリスク(*)に表示された必須入力項目のみ入力しても証明書は作成されます。
 - 証明書名：証明書名を入力します。最大31文字まで入力でき、特殊文字のうち、- _ []を入力できます。
 - 名前(CN)：証明書の名前(Common Name)を入力します。最大63文字まで入力できます。特殊文字のうち、- _ [] .*と空欄を入力できます。
 - SAN：証明書SAN (Subject Alternative Name)情報を入力します。最大198文字まで入力でき、特殊文字のうち、- _ [] .、を入力できます。
 - 有効期間：証明書の有効期間を選択します。
 - 国(C)：国(County)の情報を入力します。二文字のアルファベットのみ入力できます。
 - 市/都(ST)：都単位や市単位の地域(State or province)の情報を入力します。最大63文字まで入力でき、特殊文字のうち、- _ []と空欄を入力できます。
 - 組織(O)：機関名(Organization)の情報を入力します。最大63文字まで入力でき、特殊文字のうち、- _ []と空欄を入力できます。
 - 区/群/市(L)：詳細地域(Locality)情報を入力します。最大63文字まで入力でき、特殊文字のうち、- _ []と空欄を入力できます。
 - 組織構成単位(OU)：組織構成単位(Organation unit)情報を入力します。
 - Eメール：E-mailアドレスを入力します。
4. [証明書追加]ダイアログボックスで[確認]ボタンをクリックすると、入力した情報がリストに保存されます。

Client証明書の削除

1. 削除するClient証明書を選択します。
2. [削除]ボタンをクリックします。

CA証明書

CA証明書をインストールしたり、削除することができます。CA証明書は、CA (Certificate Authority、認証機関)で発行した証明書です。
自社で提供する[Root CA証明書]が基本に登録されており、この証明書は削除できません。①ボタンをクリックすると、証明書情報を表示します。

CA証明書の追加

1. [追加]ボタンをクリックします。
2. [CA証明書の追加]ダイアログボックスで
 - 証明書名：証明書名を入力します。
 - 証明書ファイル：[...]をクリックした後、証明書ファイルを選択します。
3. [CA証明書の追加]ダイアログボックスで[確認]ボタンをクリックすると、入力した情報がリストに保存されます。

CA証明書の削除

1. 削除するCA証明書を選択します。
 2. [削除]ボタンをクリックします。
-

イベント設定

カメラが対応するイベントとイベントアクションをまとめて管理することができます。現在のページでイベントアクションの設置値を変更すると、各イベント別の詳細設定ページアクション設定値も同一に変更されます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

イベントリスト

- 有効：[有効]カラムでチェックボックスを選択すると、選択したイベントのみ動作します。
- タイプ：[タイプ]カラムでイベント名を選択すると、該当イベントの詳細設定ページに移動します。
- イベントアクションの設定：イベントが発生した時、カメラがどのイベントアクションを行うか設定します。
 - FTP：映像画面をキャプチャーしてFTPサーバーに伝送するには、[FTP]カラムのチェックボックスを選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/Eメール]で行うことができます。
 - Eメール：映像画面をキャプチャーしてE-mailに伝送するには、[E-mail]カラムのチェックボックスを選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/Eメール]で行うことができます。
 - アラーム出力：イベントが発生した時、アラームを出力したくない場合、[off]を選択してアラームを出力したい場合、出力時間を選択します。[常時録画]を選択してユーザーがアラームを停止するまで継続出力されるように設定することもできます。アラーム出力に関する詳細設定は、[イベント]>[アラーム出力]で行うことができます。
 - プリセット移動：カメラが指定したPTZプリセット位置に移動します。

参考事項

- アラーム出力設定によって[アラーム出力]カラムの表示が異なります。アラーム出力がない場合、[アラーム出力]カラムは表示されません。アラーム出力が複数の場合、[アラーム出力1]、[アラーム出力2]のようにカラムが表示されます。アラーム出力は、[イベント]>[アラーム出力]で設定できます。

ハンドオーバ

ハンドオーバはイベントが発生した時、PTZカメラに設定しておいたPTZプリセット位置に移動する機能です。このページではプリセット位置に移動するカメラとプリセット位置を設定することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

受信者

受信用のPTZカメラを追加・削除することができます。レシーバカメラは、最大32台まで登録することができます。レシーバカメラに登録したカメラの情報が表示されます。

レシーバカメラ追加

- [追加]ボタンをクリックします。
- [カメラの追加]ダイアログボックスでハンドオーバーを受信するPTZカメラ情報を入力します。
 - 番号：レシーバカメラNo.を設定します。[分析]下位メニューでハンドオーバーのレシーバカメラを設定する時、レシーバカメラNo.を利用します。
 - IPタイプ：IPv4とIPv6の中でIPアドレスタイプを設定します。
 - タイプ：HTTPとHTTPS、TCPの中で使用する通信タイプを選択します。
 - IPアドレス：レシーバカメラのIPアドレスを入力します。
 - ポート：レシーバカメラのポートNo.を入力します。
 - ユーザー：レシーバカメラに接続するための接続IDを入力します。
[タイプ]で[HTTP]や[HTTPS]を選択した場合のみ設定できます。
 - パスワード：レシーバカメラに接続するためのパスワードを入力します。
[タイプ]で[HTTP]や[HTTPS]を選択した場合のみ設定できます。
 - 動作：イベントが発生したとき、受信カメラがどのようなアクションを実行するかを選択します。プリセット位置にカメラビューを移動するには、[preset]を選択します。クエリ文字列を示すために、[Custom]を選択します。[タイプ]で[HTTP]や[HTTPS]を選択した場合のみ設定できます。
 - プリセット番号：レシーバカメラが移動するプリセット位置No.を入力します。受信のためのPTZカメラにプリセットNo.をすでに設定する必要があります。ハンドオーバーメニューでは、すでに設定しておいたPTZプリセットNo.を入力します。
[タイプ]で[HTTP]や[HTTPS]を選択した後、[動作]で[Custom]を選択した場合のみ設定できます。
 - クエリストリング：URLのクエリストリングを入力します。[タイプ]で[HTTP]や[HTTPS]を選択した後、[動作]で[Custom]を選択した場合のみ設定できます。
 - TCPメッセージ：ユーザーがTCP受信者に伝送するメッセージを入力します。[タイプ]で[TCP]を選択した場合のみ設定できます。
 - 詳細情報：入力した情報に完成されたURLの情報を表示します。
- [OK]をクリックします。

レシーバカメラ削除

- レシーバカメラリストでチェックボックスをクリックして削除するカメラを選択します。
- [削除]ボタンをクリックした後、確認ポップアップが表示されたら[OK]をクリックします。

FTP/Eメール

カメラが映像を撮影している間、イベントが発生する場合にはカメラが撮影した画像をFTPサーバーまたはE-mailに伝送することができます。また、FTPサーバーに映像ファイルを伝送することもできます。この時に使用されるFTPサーバーとE-mail設定情報を入力します。

FTPサーバーまたはE-mailサーバー情報を入力してページの下にある[適用]ボタンをクリックすると、FTPサーバー接続テストまたはテストE-mail送信を実行します。正しくないFTPサーバーまたはE-mailサーバーアドレスを入力した場合、「失敗」というメッセージが表示されます。

FTP設定

サーバーアドレス

イベント発生時点の画像を伝送するFTPサーバーのIPアドレスを入力します。1文字から64文字まで入力できます。

ID

FTPサーバーにログインするアカウントのIDを入力します。＃％＆＋＝＼：＜＞"は使用できず、1文字から30文字まで入力できます。

パスワード

FTPサーバーにログインするアカウントのパスワードを入力します。＃％＆＋＝＼：＜＞"は使用できず、1文字から30文字まで入力できます。

アップロードディレクトリ

イベント発生時、撮影された画像を保存するFTPサーバーのパスを入力します。アルファベット、数字、特殊文字(/~`!@#\$%^&()_-+={}|;',.)を入力でき、1文字から60文字まで入力できます。

ポート

FTPサーバーのポート値を入力します。FTPサーバーのポート初期値は21で、FTPサーバーの設定によってポートを変更することができます。ポートは1～65535番の範囲内で変更することができます。

パッシブモード

ファイアウォールやFTPサーバー設定によってパッシブモードで接続する必要がある場合、[有効]を選択します。

Eメール設定

サーバーアドレス

イベント発生時点の画像をE-mailに送るためにE-mailのSMTPサーバーアドレスを入力します。1文字から64文字まで入力できます。

認証

メールを送るたびにIDとパスワードを入力して認証するかしないかを選択します。

TLS

TLSの使用有無を設定します。 보안が必要なE-mailサーバーの場合、[有効]を選択します。

ID

E-mailのSMTPサーバーにログインするアカウントのIDを入力します。 # % & + = \ : < > " ' は使用できず、1文字から32文字まで入力できます

パスワード

E-mailのSMTPサーバーにログインするアカウントのパスワードを入力します。 # % & + = \ : < > " ' は使用できず、1文字から32文字まで入力できます

ポート

E-mailのSMTPサーバーのポート値を入力します。 E-mailサーバーのポート初期値は25で、 TLSを使用する場合のポート値は465です。

受信者

E-mail受信者のE-mailアドレスを入力します。1文字から64文字まで入力できます。

発信者

E-mail発信者のE-mailアドレスを入力します。 発信者のアドレスが正しくない場合、 E-mailサーバーがメールを伝送しないことがあります。1文字から64文字まで入力できます。

件名

イベント発生時に送るE-mailの題名を入力します。 \ は使用できず、1文字から60文字まで入力できます。

メッセージ

イベント発生時に送るE-mailのメッセージを入力します。 イベントが発生すると、撮影された画像はE-mailの添付ファイルに伝送されます。 \ は使用できず、1文字から255文字まで入力できます。

アラーム出力

ユーザーがアラームを出力したり、イベントが発生してアラームに出力される時、アラームをどう制御するかを設定します。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。
アラーム出力イベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定](#)ページの[アラーム出力]に同じく適用されます。

アラーム出力番号

アラーム出力No.を選択してアラーム出力に対する詳細設定を変更することができます。
カメラごとに対応するアラーム出力数が異なります。カメラが対応するアラーム出力数だけアラーム出力No.が表示されます。

アラーム出力

タイプ

アラーム出力タイプを選択します。

- N.O. (ノーマルオープン) : 通常時はアラーム出力はオープンで、アラーム時はアラーム出力はGNDと導通します。
- N.C. (ノーマルクローズ) : 通常時はGNDと導通しており、アラーム時にオープンになります。

モード

アラームを出力する時、制御タイプを設定します。

- パルス : [実行時間で設定した時間の間、アラームが出力され自動的にアラームがオフになります。
- 有効/無効 : ライブ画面でアラーム出力ボタンを押すと、アラームが出力され再度押すとアラームがオフになります。

実行時間

[モード]で[パルス]を選択した時、アラーム出力時間を設定します。

アラーム入力

アラームが入力されると、アラーム入カイベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

アラーム入カイベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定](#)ページの[アラーム入力]に同じく適用されます。

アラーム入力番号

アラーム入力No.を選択してアラーム入力に対する詳細設定を変更することができます。カメラごとに対応するアラーム入力数が異なります。

アラームデバイス設定 入カデバイス設定

[アラーム入力番号]で選択したアラームデバイスを使用するには、[有効]を選択します。

タイプ

アラーム入カタイプを選択します。

- N.O. (ノーマルオープン) : アラーム入力センサーが基本的に開いた状態で、閉じられた状態になるとアラームに認識してアラーム入カイベントを発生させます。
- N.C. (ノーマルクローズ) : アラーム入力センサーが基本的に閉じられた状態で、開いた状態になるとアラームに認識してアラーム入カイベントを発生させます。

イベントアクションの FTP 設定

アラーム入カイベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/Eメール](#)で行うことができます。

Eメール

アラーム入カイベントが発生した時、映像の画像をE-mailに伝送するには[有効]を選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/Eメール](#)で行うことができます。

アラーム出力

アラーム入カイベントが発生した時、特定のアラームNo.でアラーム出力されるように設定することができます。アラーム出力No.を選択した後、アラームを出力したくない場合、[off]を選択してアラームを出力したい場合、出力時間を選択します。[常時録画]を選択してユーザーがアラームを停止するまで継続出力されるように設定することもできます。

アラーム出力に関する詳細設定は、[イベント]>[アラーム出力]で行うことができます。

カメラが対応する出力アラーム個数によって、アラーム出力オプションの表示が異なります。例えば出力されるアラームが2つなら、「アラーム出力1」、「アラーム出力2」とオプションが表示されます。

プリセット移動

アラーム入カイベントが発生した時、カメラ位置をすでに設定しておいた位置に移動するように設定することができます。カメラ位置プリセットは、[PTZ]>[PTZ設定]の[プリセット]タブで設定することができます。

イベントアクションスケジュール

アラーム入カイベントが発生した時、[イベントアクション]で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時録画

アラーム入カイベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に実行します。

設定時間のみ動作

設定した時間にアラーム入カイベントが発生した時、設定したイベントアクションを実行します。[設定時間のみ動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベント動作時間は、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。

[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベント動作時間がすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付&時間]を参照してください。

時間・スケジュール

タイムスケジュールイベントは、設定した間隔でイベントを発生させる機能です。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

時間スケジュールイベントに対する設定は、[イベント]>[\[イベント設定\]](#)ページの[時間スケジュール]に同じく適用されます。

イベントスケジュール設定 タイマーイベント設定を有効にするためには、[有効]を選択します。

伝送間隔

イベントの発生する間隔を設定します。

画像の伝送間隔を設定します。何秒または何分あたりに画像一枚ずつイベントで発生させるか設定します。

参考事項

- イベントアクションの設定で設定した動作時間間隔よりも伝送間隔時間を短く設定する必要があります。

イベントアクションの設定

時間スケジュールイベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[\[FTP/メール\]](#)で行うことができます。

イベントアクションスケジュール 時間スケジュールイベントが発生した時、[\[イベントアクションの設定\]](#)で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時録画

時間スケジュールイベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に行います。

設定時間のみ動作

決まった曜日の決まった時間のみ、周期的に設定された動作を実行します。[設定時間のみ動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベント動作時間は、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベント動作時間がすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付&時間]を参照してください。

ネットワーク切断

ネットワーク接続が物理的に切断される場合にイベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

ネットワーク切断イベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定]ページの[ネットワーク切断]に同じく適用されます。

ネットワーク切断	ネットワーク切断イベントを有効にするためには、[有効]を選択します。
-----------------	------------------------------------

イベントアクションの 設定

ネットワーク切断イベントが発生した時、特定のアラームNo.でアラーム出力されるように設定することができます。アラーム出力No.を選択した後、アラームを出力したくない場合、[off]を選択してアラームを出力したい場合、出力時間を選択します。[常時録画]を選択してユーザーがアラームを停止するまで継続出力されるように設定することもできます。

アラーム出力設定によって[アラーム出力]オプションの表示が異なります。アラーム出力がない場合、[アラーム出力]オプションは表示されません。アラーム出力が複数の場合、[アラーム出力1]、[アラーム出力2]のように表示されます。

アラーム出力は、[イベント]>[アラーム出力]で設定できます。

プリセット移動

ネットワーク切断イベントが発生した時、カメラ位置をすでに設定しておいた位置に移動するように設定することができます。カメラ位置プリセットは、[PTZ]>[PTZ設定]の[プリセット]タブで設定することができます。

イベントアクションス ケジュール

ネットワーク切断イベントが発生した時、[イベントアクションの設定]で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時録画

ネットワーク切断イベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に実行します。

設定時間のみ動作

設定した時間にネットワーク切断イベントが発生した時、設定したイベントアクションを実行します。[設定時間のみ動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベント動作時間は、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。

[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベント動作時間がすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付&時間]を参照してください。

アプリケーションイベント

[[オープンプラットフォーム](#)]でインストールしたアプリケーションで定義した規則でイベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。
アプリケーションイベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定](#)ページの[アプリケーションイベント]に同じく適用されます。

アプリケーションイベント アプリケーションイベントを有効にするためには、[有効]を選択します。

イベントアクションの設定

FTP
アプリケーションイベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/Eメール](#)で行うことができます。

Eメール

アプリケーションイベントが発生した時、映像の画像をE-mailに伝送するには[有効]を選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/Eメール](#)で行うことができます。

イベントアクションスケジュール

アプリケーションイベントが発生した時、[イベントアクションの設定](#)で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時録画

アプリケーションイベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に実行します。

設定時間のみ動作

設定した時間にアプリケーションイベントが発生した時、設定したイベントアクションを実行します。[設定時間のみ動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベント動作時間は、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。

[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベント動作時間がすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付&時間]を参照してください。

モーション検知

エリアと除外エリアを設定した後、ユーザーが設定したエリア内でモーションを検知すると、モーション検知イベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

モーション検知イベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定]ページの[モーション検知]に同じく適用されます。

モーション検知

モーション検知を有効にする

モーション検知イベントを有効にするためには、[モーション検知を有効にする]を選択します。

タイプ

すべてのプリセットに同じモーション検知を設定するには、[グローバル]を選択します。PTZプリセット別にそれぞれのモーション検知を設定するには、[プリセット]を選択します。

プリセット設定ページでプリセットを設定した場合のみ、[プリセット]オプションが有効になります。[プリセット]を選択してプリセット別にモーション検知設定を指定する場合、詳細設定項目中の一部機能は設定することができません。

参考事項

- モーションのサイズ範囲に合わせてエリアと除外エリアを設定して使用します。
- 下記の場合には、モーション検知イベントの性能が低下されるか誤動作することがあります。
 - 対象物が画面の背景と似た明るさか色である場合
 - 画面の枠の周囲で発生する細かいモーションの場合
 - シーンチェンジ、急激な照明変更などの要因により画面の全体的な変化がランダムで持続的に発生する場合
 - 動く対象物がカメラに近づく場合
 - 任意の対象物がお互いに違う対象物を隠す場合
 - 対象物のモーションが速すぎる場合(同一の対象物は連続されたフレームの間に重なる部分が存在する必要があります。)
 - 直射光線、照明、車のヘッドライトなどの強い光による反射/濁り/影が発生する場合
 - ひどい雪、雨、風などがあるか日の入り/日の出などの場合

検知エリア

ユーザーが指定するエリアをモーションエリアに設定します。

エリア設定

プレビュー画面からマウスで頂点4つを選択するか、マウスでドラッグして四角を描くとエリアが設定されます。

エリアは最大8つまで設定することができ、エリア別にレベルと感度をそれぞれ設定することができます。

エリア変更

エリアの頂点を動かしてエリアのサイズを変更することができます。
多角形を作るには、作られた四角の線を選択した後、表示されるプラス(+)記号をクリックして頂点を追加します。最大4つの点を追加して多角形を作ることができます。
エリアを移動するには、マウスで該当エリアをクリックしてドラッグします。

エリア削除

エリアを削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

PTZ調整

-  アイコンをマウスでドラッグすると、カメラがパンとチルトに移動します。
- ズーム棒で[+]ボタンをクリックして画面をズームインしたり、[-]ボタンをクリックして画面をズームアウトして映像倍率を選択します。
-  アイコンをクリックしてフォーカスを近く(near)移動したり、 アイコンをクリックしてフォーカスを遠く(far)移動します。
- カメラのフォーカスを自動で一度合わせるには、 ボタンをクリックします。

ROIエリア

エリアが追加されると、順番にエリア数字ボタン色が変更されます。数字ボタンをクリックすると、該当のエリアがプレビュー画面で選択されます。

検知レベル

モーション検知の基準になるレベル値を設定します。[ROIエリア]で設定したエリア別にレベル値を設置することができます。設定したレベル値よりモーションが大きい場合、モーション検知イベントを発生させます。
またエリア別にモーションを検知するとモーショングラフが表示され、モーション検知イベントが発生した場合グラフ色が変わります。

感度

エリア別にモーション検知感度を設定します。背景と対象物の区分が明確な環境では感度を低く設定し、暗くて背景と対象物の区分が明確ではない環境では感度を高く設定します。

最小観察時間(秒)

最小観察時間(秒)：検知した後、イベントを発生させるための最短時間を設定します。設定した時間より長くモーションが持続されるとき、イベントを発生させます

除外エリア

除外エリア設定

プレビュー画面からマウスで頂点4つを選択するか、マウスでドラッグして四角を描くと除外エリアが設定されます。
除外エリアは最大8まで設定することができます。

除外エリア変更

除外エリアの頂点を動かして除外エリアのサイズを変更することができます。

多角形を作るには、作られた四角の線を選択した後、表示されるプラス(+)記号をクリックすると頂点が追加されます。最大4つの点を追加して多角形を作ることができます。除外エリアを移動するには、マウスで該当エリアをクリックしてドラッグします。

除外エリア削除

除外エリアを削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

ROIエリア

除外エリアが追加されると、順番に[ROIエリア]数字ボタン色が変更されます。数字ボタンをクリックすると、該当の除外エリアがプレビュー画面で選択されます。

共通設定

モーションを検知する対象物の最小、最大サイズを設定します。

サイズ

右下の頂点をクリックした後、マウスをドラッグしてサイズを変更することができます。サイズを変更すると、[サイズ]の[最小サイズ]値と[最大サイズ]値も変更されます。

参考事項

- エリアと除外エリアが同一か重なる場合、除外エリアの方が優先されます。
- ユーザーが指定した最小サイズより小さいモーションと最大サイズより大きいモーションは検知しません。大小のノイズによる誤検知を避けるために設置環境に適する最小/最大検知サイズを設定してください。但し、同じ位置での同じモーションでも検知されるサイズは、多少差があるため偏差を考えて余裕を含み最小/最大サイズの上限を設定してください。

ハンドオーバ

ハンドオーバ

ハンドオーバ・レシーバカメラNo.を選択します。ハンドオーバ機能を使用しない場合、[off]を選択します。

ハンドオーバは、モーション検知イベントが発生すると、レシーバカメラがすでに設定しておいたPTZプリセット位置に移動する機能です。ハンドオーバ・レシーバカメラは、[イベント]>[ハンドオーバ]メニューで設定することができます。

参考事項

- エリア別にハンドオーバ・レシーバカメラを設定することができます。ハンドオーバ機能は、エリアを先に設定してから使用することができます。

オーバーレイ

[有効]をクリックすると、検知された位置を映像にオーバーレイして表示します。

イベントアクションの 設定

モーションイベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/Eメール]で行うことができます。

Eメール

モーション検知イベントが発生した時、映像の画像をE-mailに伝送するには[有効]を選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/Eメール]で行うことができます。

アラーム出力

モーション検知イベントが発生した時、特定のアラームNo.でアラーム出力されるように設定することができます。アラーム出力No.を選択した後、アラームを出力したくない場合、[off]を選択してアラームを出力したい場合、出力時間を選択します。[常時録画]を選択してユーザーがアラームを停止するまで継続出力されるように設定することもできます。

アラーム出力設定によって[アラーム出力]オプションの表示が異なります。アラーム出力がない場合、[アラーム出力]オプションは表示されません。アラーム出力が複数の場合、[アラーム出力1]、[アラーム出力2]のように表示されます。

アラーム出力は、[イベント]>[アラーム出力]で設定できます。

プリセット移動

モーション検知イベントが発生した時、カメラ位置をすでに設定しておいた位置に移動するように設定することができます。カメラ位置プリセットは、[PTZ]>[PTZ設定]の[プリセット]タブで設定することができます。

イベントアクションス ケジュール

モーション検知イベントが発生した時、[イベントアクションの設定]で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時録画

モーション検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に実行します。

設定時間のみ動作

設定した時間にモーション検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを実行します。[設定時間のみ動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベント動作時間は、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。

[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベント動作時間がすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付&時

間]を参照してください。

タンパリング検知

画面が隠されたりカメラの位置が変更される場合、タンパリング検知イベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

タンパリング検知イベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定]ページの[タンパリング検知]に同じく適用されます。

タンパリング検知

タンパリング検知を有効にする

タンパリング検知イベントを有効にするためには、[タンパリング検知を有効にする]を選択します。

PTZ調整

-  アイコンをマウスでドラッグすると、カメラがパンとチルトに移動します。
- ズーム棒で[+]ボタンをクリックして画面をズームインしたり、[-]ボタンをクリックして画面をズームアウトして映像倍率を選択します。
-  アイコンをクリックしてフォーカスを近く(near)移動したり、 アイコンをクリックしてフォーカスを遠く(far)移動します。
- カメラのフォーカスを自動で一度合わせるには、 ボタンをクリックします。

検知レベル

タンパリング検知の基準になるレベル値を設定します。設定したレベル値以上のタンパリングが検知されると、タンパリングイベントを発生させます。

またタンパリングを検知するとレベルを示すグラフが表示され、タンパリング検知イベントが発生した場合グラフ色が変更されます。

感度

感度を高く設定するほど、検知レベルのグラフが敏感に反応します。

最小観察時間(秒)

タンパリングを検知してイベントに発生させるまでの最短時間を設定します。タンパリングが最短時間の間に持続する場合のみ、タンパリング検知イベントが発生します。

ダークネス除外

急に照明が消えるなど、画面の明るさが急激に減少することをタンパリング検知イベントから除外するには、[有効]を選択します。

光が遮って暗くなったことを照明が消えて暗くなったと検知し、画面の明るさ変化に対する通知を除外することができます。

参考事項

- 背景がシンプルな環境と夜間および低照度環境では、検知性能が低くなることがあります。
- カメラがひどく揺れたり急激な照明変化がある場合、タンパリング検知機能が誤動作することがあります。
- タンパリングが発生した直後からタンパリング検知イベントが発生するまで、一定時間(最大5秒)がかかります。
- カメラのタンパリングが検知されると、一定時間(およそ5秒)安定化してから機能がリスタートされ、安定化が実行される間にはタンパリングを検知しません。
- イベントが間違えて発生し続ける場合、段階的にレベル値を下げてエラーを最小化することができます。
- 低い検知レベルを使うと、画面の細かい変化にも通知を受けることができるが、移動体や明るさ変化による誤検知が発生することがあります。

ハンドオーバ

ハンドオーバ

ハンドオーバ・レシーバカメラNo.を選択します。ハンドオーバ機能を使用したくない場合、[off]を選択します。

ハンドオーバは、タンパリングイベントが発生すると、レシーバカメラがすでに設定しておいたPTZプリセット位置に移動する機能です。ハンドオーバ・レシーバカメラは、[イベント]>[ハンドオーバ]メニューで設定することができます。

イベントアクションの設定

タンパリング検知イベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/Eメール]で行うことができます。

Eメール

タンパリング検知イベントが発生した時、映像の画像をE-mailに伝送するには[有効]を選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/Eメール]で行うことができます。

アラーム出力

タンパリング検知イベントが発生した時、特定のアラームNo.でアラーム出力されるように設定することができます。アラーム出力No.を選択した後、アラームを出力したくない場合、[off]を選択してアラームを出力したい場合、出力時間を選択します。[常時録画]を選択してユーザーがアラームを停止するまで継続出力されるように設定することもできます。

アラーム出力設定によって[アラーム出力]オプションの表示が異なります。アラーム出力がない場合、[アラーム出力]オプションは表示されません。アラーム出力が複数の場合、[アラーム出力1]、[アラーム出力2]のように表示されます。

アラーム出力は、[イベント]>[アラーム出力]で設定できます。

プリセット移動

タンパリング検知イベントが発生した時、カメラ位置をすでに設定しておいた位置に移動するように設定することができます。カメラ位置プリセットは、[PTZ]>[PTZ設定]の[プリセット]タブで設定することができます。

イベントアクションスケジュール

タンパリング検知イベントが発生した時、[イベントアクションの設定]で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時録画

タンパリング検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に実行します。

設定時間のみ動作

設定した時間にタンパリング検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを実行します。[設定時間のみ動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベント動作時間は、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。

[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベント動作時間がすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付&時間]を参照してください。

霧検知

霧がかかって映像識別に困る天氣に霧検知イベントを発生させ、設定によって曇り除去機能を実行して映像を補正することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。霧検知イベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定]ページの[霧検知]に同じく適用されます。

霧検知

霧検知を有効にする

霧検知イベントを有効にするためには、[霧検知を有効にする]を選択します。

PTZ調整

-  アイコンをマウスでドラッグすると、カメラがパンとチルトに移動します。
- ズーム棒で[+]ボタンをクリックして画面をズームインしたり、[-]ボタンをクリックして画面をズームアウトして映像倍率を選択します。
-  アイコンをクリックしてフォーカスを近く(near)移動したり、 アイコンをクリックしてフォーカスを遠く(far)移動します。
- カメラのフォーカスを自動で一度合わせるには、 ボタンをクリックします。

検知レベル

現在、霧のレベルがレベルグラフに表示されます。現在、レベルが設定された検知レベルより高い場合、アラームが発生します。検知レベル値が小さいほど、霧によって映像が微細にぼけても検知することができます。

感度

感度を高く設定するほど、同じ映像に対するレベルグラフがより高く描かれます。

最小観察時間(秒)

霧を検知してイベントに発生させるまでの最短時間を設定します。検知レベル以上のレベル状況が設定された「最短時間」の間、連続で持続されるとアラームが発生します。

参考事項

- 霧検知に対するアラーム発生後、再度霧検知に対するアラームを受けるためには、必ず一度は安定状況に戻る必要があります。曇り除去動作による映像改善は、安定状況として認識されません。安定状況に戻る原因としては、下記の場合があります。
 - [霧検知を有効にする]をチェック解除した場合
 - 霧または煙が消えて映像の識別ができるレベルになった場合
- 下記の場合には、霧検知性能が低下されるか誤動作が発生することがあります。
 - 背景がシンプルな監視環境と夜間、低照度環境
 - 急激な照明変更(例：屋内の電灯消灯)
 - レンズが隠されることまたは画面のほとんどを占める大きい対象物登場
 - カメラ位置変更などによるフォーカス対象変更

曇り除去

[有効]を選択すると、曇り検知イベントが発生した時、曇り除去機能が動作します。

i 参考事項

- [カメラ設定]>[スペシャル]で[曇り除去]モードが[Off]に設定されてる場合、[霧探知]設定で[曇り除去]機能を有効にすると、[カメラ設定]の[曇り除去]モードが[Off]から[自動]に変更されます。[霧探知]設定で[曇り除去]機能を無効にしても[カメラ設定]の[曇り除去]モードが再び[Off]には変更されません。

イベントアクションの設定

霧検知イベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/Eメール]で行うことができます。

Eメール

霧検知イベントが発生した時、映像の画像をE-mailに伝送するには[有効]を選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/Eメール]で行うことができます。

アラーム出力

霧検知イベントが発生した時、特定のアラームNo.でアラーム出力されるように設定することができます。アラーム出力No.を選択した後、アラームを出力したくない場合、[off]を選択してアラームを出力したい場合、出力時間を選択します。[常時録画]を選択してユーザーがアラームを停止するまで継続出力されるように設定することもできます。

アラーム出力設定によって[アラーム出力]オプションの表示が異なります。アラーム出力がない場合、[アラーム出力]オプションは表示されません。アラーム出力が複数の場合、[アラーム出力1]、[アラーム出力2]のように表示されます。アラーム出力は、[イベント]>[アラーム出力]で設定できます。

プリセット移動

霧検知イベントが発生した時、カメラ位置をすでに設定しておいた位置に移動するように設定することができます。カメラ位置プリセットは、[PTZ]>[PTZ設定]の[プリセット]タブで設定することができます。

曇り除去

霧検知イベントが発生した時、曇り除去を実行するには[有効]を選択します。

イベントアクションスケジュール

霧検知イベントが発生した時、[イベントアクションの設定]で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時録画

霧検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に行います。

設定時間のみ動作

設定した時間に霧検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを実行します。[設定時間のみ動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベント動作時間は、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。

[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベント動作時間がすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付&時間]を参照してください。

顔検出

カメラで映像撮影中にユーザーが指定したエリアで顔が検知される場合、顔検知イベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

顔検知イベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定]ページの[顔検知]に同じく適用されます。

顔検出

顔検出を有効にする

顔検知イベントを有効にするためには、[顔検出を有効にする]を選択します。

検知エリア

エリア設定

[顔検出を有効にする]を選択すると、四角のオレンジ色の枠にエリアが表示されます。四角の真ん中に最小顔検知サイズが顔の画像で表示されますが、顔の画像より大きい顔のみ検知します。

エリア変更

設定したエリアの右下にある頂点を動かしてエリアのサイズを変更することができます。エリアを移動させるためには、マウスで該当エリアをクリックしてドラッグします。

PTZ調整

-  アイコンをマウスでドラッグすると、カメラがパンとチルトに移動します。
- ズーム棒で[+]ボタンをクリックして画面をズームインしたり、[-]ボタンをクリックして画面をズームアウトして映像倍率を選択します。
-  アイコンをクリックしてフォーカスを近く(near)移動したり、 アイコンをクリックしてフォーカスを遠く(far)移動します。
- カメラのフォーカスを自動で一度合わせるには、 ボタンをクリックします。

感度

顔検知イベントの感度を設定します。感度が高いほど、細かく顔検知をすることができます。

モーションベースの関心エリア移動

モーション分析によって顔検知エリアが自動に変更されるようにするには、[有効]を選択します。[有効]を選択しない場合、設定したエリアでしか顔を検知しません。

エリアを設定すると、設定したエリア内でのみ顔が検知され、遠くの小さい顔は検知効率が落ちる場合があります。「モーションベースの関心エリア移動」機能を使うと、画面全体でモーションを検知する時に顔検知のためのエリアが自動に変更され顔検知の効率が向上されます。

参考事項

- モーションベースの動的領域機能を使用時、モーションが発生するエリアのみ顔検知エリアに指定されます。

- 複数のエリアで顔を検知するために検知エリアが能動的に変更されるため、持続的な顔検知は不可能です。

除外エリア

除外エリア設定

プレビュー画面からマウスで頂点4つを選択するか、マウスでドラッグして四角を描くと除外エリアが設定されます。

除外エリアは最大8つまで設定することができます。

除外エリア変更

設定した除外エリアの頂点を動かして除外エリアのサイズを変更することができます。

多角形を作るには、作られた四角の線を選択した後、表示されるプラス(+)記号をクリックすると頂点が追加されます。最大4つの点を追加して多角形を作ることができます。

除外エリアを移動するには、マウスで該当エリアをクリックしてドラッグします。

除外エリア削除

除外エリアを削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

ROIエリア

除外エリアが追加されると、順番に数字ボタン色が変更されます。数字ボタンをクリックすると、該当の除外エリアがプレビュー画面で選択されます。

参考事項

- エリアと除外エリアが同一か重なる場合、除外エリアの方が優先されます。

オーバーレイ

[有効]をクリックすると、検知された位置を映像にオーバーレイして表示します。

イベントアクションの 設定

顔検知イベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[\[FTP/Eメール\]](#)で行うことができます。

Eメール

顔検知イベントが発生した時、映像の画像をE-mailに伝送するには[有効]を選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[\[FTP/Eメール\]](#)で行うことができます。

アラーム出力

顔検知イベントが発生した時、特定のアラームNo.でアラーム出力されるように設定することができます。アラーム出力No.を選択した後、アラームを出力したくない場合、[Off]を選択してアラームを出力したい場合、出力時間を選択します。[常

時録画]を選択してユーザーがアラームを停止するまで継続出力されるように設定することもできます。アラーム出力に関する詳細設定は、[イベント]>[\[アラーム出力\]](#)で行うことができます。

カメラが対応する出力アラーム個数によって、アラーム出力オプションの表示が異なります。例えば出力されるアラームが2つなら、「アラーム出力1」、「アラーム出力2」とオプションが表示されます。

プリセット移動

顔検知イベントが発生した時、カメラ位置をすでに設定しておいた位置に移動するように設定することができます。カメラ位置プリセットは、[PTZ]>[\[PTZ設定\]](#)の[\[プリセット\]](#)タブで設定することができます。

イベントアクションスケジュール

顔検知のイベントアクションの動作時間を設定します。[\[イベントアクションの設定\]](#)で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時録画

顔検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に実行します。

設定時間のみ動作

設定した時間に顔検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを実行します。[\[設定時間のみ動作\]](#)を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベント動作時間は、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。

[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[\[初期化\]](#)ボタンをクリックすると、設定されたイベント動作時間がすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[\[日付&時間\]](#)を参照してください。

IVA

ビデオ映像分析に対する規則を設定して、イベント規則条件を満足するモーションを検知すると、IVA(Intelligent Video Analytics、インテリジェントビデオ解析)イベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

IVAイベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定]ページの[IVA]に同じく適用されます。

IVA(インテリジェントビデオ解析)

IVAを有効にする

IVAイベントを有効にするためには、[IVAを有効にする]を選択します。

タイプ

すべてのプリセットに同じIVA(インテリジェントビデオ解析)を設定するには、[グローバル]を選択します。PTZプリセット別にそれぞれのIVA(インテリジェントビデオ解析)を設定するには、[プリセット]を選択します。プリセット設定ページでプリセットを設定した場合のみ、[プリセット]オプションが有効になります。

仮想ライン

ユーザーが設定したバーチャルラインと方向を基準に対象物が通過することを検知します。

バーチャルライン設定

カメラ映像画面の設定したい位置でラインの開始点と端点をクリックすると、バーチャルラインが設定され[ライン]の数字ボタン色が変更されます。

バーチャルラインの真ん中にある矢印をクリックすると、方向をAからB、BからA、両方向に変更したり[カテゴリー]の[方向]でお望みの方向を選択することもできます。バーチャルラインは最大8つまで設定することができます。

バーチャルライン変更

設定したバーチャルラインの頂点を動かしてバーチャルラインのサイズを変更することができます。バーチャルラインをマウスをクリック、ドラッグしてバーチャルラインの位置を変更することができます。また、仮想線を選択した後に+記号が表示されたら、+記号をクリックして頂点を追加し、頂点を移動してさまざまな形状の仮想線を作成できます。

バーチャルライン削除

バーチャルラインを削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

PTZ調整

- アイコンをマウスでドラッグすると、カメラがパンとチルトに移動します。
- ズーム棒で[+]ボタンをクリックして画面をズームインしたり、[-]ボタンをクリックして画面をズームアウトして映像倍率を選択します。
- ▲ アイコンをクリックしてフォーカスを近く(near)移動したり、▲ アイコンをクリックしてフォーカスを遠く(far)移動します。
- カメラのフォーカスを自動で一度合わせるには、🔍 ボタンをクリックします。

ライン

バーチャルラインが追加されると、順番に[ライン]の数字ボタン色が変更されます。数字ボタンをクリックして無効にすると、該当のバーチャルラインはプレビュー画面に表示されません。もう一度、数字ボタンをクリックするとバーチャルラインが再度表示されます。

カテゴリー

- 通過：設定したルールによってバーチャルラインを通過する対象物を検知した時、イベントを発生させるためにはチェックボックスを選択する必要があります。
- 方向：対象物がバーチャルラインを通過する方向を設定します。

バーチャルエリア

ユーザーがバーチャルエリアを設定して該当のエリアに侵入、進入、退出、出現(消滅)、うろつきの映像規則を適用して、対象物のモーションを検知します。

バーチャルエリア設定

プレビュー画面からマウスで頂点4つを選択するか、マウスでドラッグして四角を描くとエリアが設定されます。
バーチャルエリアは最大8つまで設定することができ、エリア別にビデオ映像分析の規則を設定することができます。

バーチャルエリア変更

設定したバーチャルエリアの頂点を動かしてバーチャルエリアのサイズを変更することができます。
多角形を作るには、作られた四角の線を選択した後、表示されるプラス(+)記号をクリックして頂点を追加します。最大4つの点を追加して多角形を作ることができます。
設定したバーチャルエリアを移動するには、マウスで該当エリアをクリックしてドラッグします。線をクリックした後、表示された頂点を移動して多角形のバーチャルエリアを設定することができます。

バーチャルエリア削除

バーチャルエリアを削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

ROIエリア

バーチャルエリアが追加されると、順番に[ROIエリア]の数字ボタン色が変更されます。数字ボタンをクリックして無効にすると、該当のバーチャルエリアはプレビュー画面に表示されません。もう一度、数字ボタンをクリックするとバーチャルエリアが再度表示されます。

カテゴリー

バーチャルエリア別に適用する規則を設定することができます。

- 侵入する：設定したエリア内部に動く対象物を検知すると、イベントを発生させます。
 - 最小観察時間(秒)：検知した後、イベントを発生させるための最短時間を設定します。設定した時間より長くモーションが持続されるとき、イベントを発生させます。

- 進入：動く対象物がユーザーの指定したエリアの外部から内部に入る時、イベントを発生させます。
- 退出：動く対象物がユーザーの指定したエリアの内部から外部に退出時、イベントを発生させます。
- 出現(消滅)：ユーザーが指定したエリア内部に存在しなかった対象物がエリアラインを通過せずにエリア内部に現れ一定時間とどまったり、エリア内部に存在していた対象物が消えるとイベントを発生させます。
 - 最小観察時間(秒)：出現(消滅)を検知するための対象物の最短持続時間を設定します。検知エリアで実行時間の間、存在していた対象物が消えると消滅に検知し、実行時間の間に存在しなかった対象物が現れると出現と検知します。
- うろつく：設定した検知エリア内でうろつくモーションを検知すると、イベントを発生させます。
 - 最小観察時間(秒)：うろつく対象物を検知してイベントを発生するための最小時間を設定します。設定した時間より長くうろつく対象物を検知すると、イベントを発生させます。

i 参考事項

- うろつく検知は他のIVAイベント検知と共に使用する場合、単独で使うことより多少性能が低下することがあります。
- 下記の場合には、対象物が消滅したことに認識してうろつく検知機能が動作しないことがあります。
 - うろついている対象物が他の対象物と重なる場合
 - うろついている対象物が一定時間、動かない場合
 - うろついている対象物と近接領域に移動体がある複雑な環境が発生した場合

除外エリア

バーチャルラインとバーチャルエリアで分析規則を適用する時、モーションを検知しない位置に除外エリアを設定します。

除外エリア設定

プレビュー画面からマウスで頂点4つを選択するか、マウスでドラッグして四角を描くと除外エリアが設定されます。
除外エリアは最大8つまで設定することができます。

除外エリア変更

設定した除外エリアの頂点を動かして除外エリアのサイズを変更することができます。
多角形を作るには、作られた四角の線を選択した後、表示されるプラス(+)記号をクリックすると頂点が追加されます。最大4つの点を追加して多角形を作ることができます。
除外エリアを選択してマウスをドラッグすると、除外エリアの位置を移動することができます。

除外エリア削除

除外エリアを削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

ROIエリア

除外エリアが追加されると、順番に[ROIエリア]の数字ボタン色が変更されます。
数字ボタンをクリックして無効にすると、該当の除外エリアはプレビュー画面に選択されます。

共通設定

バーチャルラインとバーチャルエリアに共通に適用される感度と検知する対象物の最小、最大サイズを設定します。

使用環境によって検知の正確度を上げ、誤検知を最小化するために適用することができる設定です。

感度

バーチャルラインとバーチャルエリアに対するモーション検知の感度を設定します。背景と対象物の区分が明確な環境では感度を低く設定し、暗くて背景と対象物の区分が明確ではない環境では感度を高く設定します。

サイズ

バーチャルラインとバーチャルエリアでモーションを検知する対象物の最小、最大サイズを設定します。頂点をクリックした後、マウスをドラッグしてサイズを変更することができます。サイズを変更すると、[サイズ]の[最小サイズ]値と[最大サイズ]値も変更されます。

i 参考事項

- エリアと除外エリアが同一か重なる場合、除外エリアの方が優先されます。
- ユーザーが指定した最小サイズより小さいモーションと最大サイズより大きいモーションは検知しません。大小のノイズによる誤検知を避けるために設置環境に適する最小/最大検知サイズを設定してください。但し、同じ位置での同じモーションでも検知されるサイズは、多少差があるため偏差を考えて余裕を含み最小/最大サイズの上限を設定してください。

ハンドオーバ

ハンドオーバ

ハンドオーバ・レシーバカメラNo.を選択します。ハンドオーバ機能を使用したくない場合、[off]を選択します。

ハンドオーバは、IVAイベントが発生すると、レシーバカメラがすでに設定しておいたPTZプリセット位置に移動する機能です。ハンドオーバ・レシーバカメラは、[イベント]>[ハンドオーバ]メニューで設定することができます。

i 参考事項

- バーチャルラインとエリア別にハンドオーバ・レシーバカメラを設定することができます。ハンドオーバ機能は、バーチャルラインやエリアを先に設定してから使用することができます。

オーバーレイ

[有効]をクリックすると、検知された位置を映像にオーバーレイして表示します。

イベントアクションの 設定

IVAイベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/Eメール]で行うことができます。

Eメール

IVAイベントが発生した時、映像の画像をE-mailに伝送するには[有効]を選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/Eメール]で行うことができます。

アラーム出力

IVAイベントが発生した時、特定のアラームNo.でアラーム出力されるように設定することができます。アラーム出力No.を選択した後、アラームを出力したくない場合、[off]を選択してアラームを出力したい場合、出力時間を選択します。[常時録画]を選択してユーザーがアラームを停止するまで継続出力されるように設定することもできます。

アラーム出力設定によって[アラーム出力]オプションの表示が異なります。アラーム出力がない場合、[アラーム出力]オプションは表示されません。アラーム出力が複数の場合、[アラーム出力1]、[アラーム出力2]のように表示されます。

アラーム出力は、[イベント]>[アラーム出力]で設定できます。

プリセット移動

IVAイベントが発生した時、カメラ位置をすでに設定しておいた位置に移動するように設定することができます。カメラ位置プリセットは、[PTZ]>[PTZ設定]の[プリセット]タブで設定することができます。

イベントアクションスケジュール

IVAイベントアクションの動作時間を設定します。[イベントアクションの設定]で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時録画

IVAイベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に行います。

設定時間のみ動作

設定した時間にIVAイベントが発生した時、設定したイベントアクションを実行します。[設定時間のみ動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベント動作時間は、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。

[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベント動作時間がすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付&時間]を参照してください。

製品情報

製品の型名、製造番号の確認やデバイス名、位置、詳細情報、言語などを設定することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

製品情報

型名

使用している製品の型名です。型名は確認だけ可能で変更することはできません。

製造番号

使用している製品の製造番号です。製造番号は確認だけ可能で変更することはできません。

デバイス名

使用している製品のデバイス名を入力することができます。カメラを数台設置した場合には、カメラを区分するためにデバイス名を別々に入力することをお勧めします。

位置

使用している製品の設置位置を入力することができます。カメラを数台設置した場合には、設置位置を区分するために設置位置を別々に入力することをお勧めします。

詳細情報

使用している製品に対する詳細情報を入力することができます。設置日時、画面が表示する場所など他の必要情報に対して入力します。

メモ

使用している製品に対する詳細情報を入力することができます。詳細情報部分に書けなかった他の必要情報に対して入力します。

言語

使用している製品の言語を選択することができます。言語を選択して適用をクリックすると、すべてのUIが該当言語に変更されます。

オープンソースライセンス

本製品で使用しているオープンソースライセンス情報を提供します。[ビュー]ボタンをクリックすると、本製品で使用しているオープンソースライセンス情報とライセンス全文を確認することができます。

参考事項

- 「デバイス名」項目は#"'+<>=\\%*を外した特殊文字、韓国語、ローマ字の大文字&小文字、数字を入力することができます。最大8文字まで入力することができます。
- 「位置」、「詳細情報」、「メモ」項目はローマ字&数字、特殊文字~`!@\$%^()_~|{}[];,:/?とスペースだけ入力することができます。最大32文字まで入力できます。

アップグレード/再起動

使用する製品のソフトウェアをアップグレードしたり出荷条件初期化することができます。また設定をエクスポートしてリストアしたりリスタートすることができます。

アップグレード

新しいバージョンのファームウェアが配布されたら現在使用している製品のソフトウェアをアップグレードすることができます。また、以前のバージョンにダウングレードすることもできます。

ソフトウェア

使用している製品のソフトウェアバージョンです。ソフトウェアバージョンは確認だけ可能で変更することはできません。

[詳細情報]ボタンをクリックすると、ソフトウェアに適用されたISPバージョンやSUNAPIバージョンを含めたソフトウェア詳細情報を確認することができます。

ソフトウェア・アップグレード

使用している製品のソフトウェアをアップグレードすることができます。ソフトウェアをアップグレードするには、[...]ボタンをクリックします。アップグレードファイルを選択した後、[開く]ボタンをクリックします。[アップグレード]ボタンをクリックすると、アップグレードを開始します。アップグレードの進行状況を%で確認することができます。アップグレードが完了すると、カメラが再起動されて自動的にアクセスが切断されます。ウェブビューアーに再アクセスする必要があります。

参考事項

- アップグレードは最大10分ぐらいかかります。アップグレードをしている間には、強制にプログラムを終了しないでください。正しくアップグレードされない場合があります。
- ソフトウェアをアップグレードした後、再アクセスする時にブラウザのキャッシュをすべて削除しないとウェブビューアー機能が正しく動作しないことがあります。
- 最新のソフトウェアバージョンは、Hanwha Visionのウェブサイト (<http://www.hanwhavision.com> (<http://www.hanwhavision.com>))でダウンロードすることができます。

工場出荷状態に初期化

システム設定を製品を購入した当時の設定に初期化することができます。[初期化]ボタンをクリックした後、確認ポップアップで[OK]ボタンをクリックすると出荷条件初期化を行います。(但し、ログは初期化されません。)

出荷条件初期化を行うとき、ネットワーク設定を除外して他の設定だけを出荷条件初期化するためには、[ネットワーク設定&オープンプラットフォーム設定維持]を選択します。出荷条件初期化を進行すると、カメラとのアクセスが切断されます。ウェブビューアーに初回アクセスする時にパスワードを再設定する必要があります。

設定バックアップ/復元 現在、カメラ設定をバックアップして保存した後にお望みの設定にリストアすることができます。お望みの設定のバックアップファイルを複数生成した後、製品の使用用途または環境によってお望みの設定にリストアして使用することができます。

バックアップ

[バックアップ]ボタンをクリックすると、「型名Config.bin」ファイルタイプにバックアップファイルが生成されます。

リストア

[リストア]ボタンをクリックすると、リストアするバックアップファイルを選択するポップアップが表示されます。バックアップファイルを選択して[開く]ボタンを押すと、該当リストアファイルを基準に設定がリストアされます。

参考事項

- 設定をリストアすると、カメラとのアクセスが自動的に切断されウェブビューアーに再アクセスする必要があります。
- 使用している製品と同じ型名ではない違う型名のバックアップファイルを読み込んでリストアに使用する場合、機能差で製品が誤動作することがあります。他型名のバックアップファイルをリストアに使用せずに手動で設定を変更します。

再起動

カメラのシステムをリスタートすることができます。[再起動]ボタンをクリックした後、確認ポップアップが表示されたら[OK]ボタンをクリックします。カメラがリスタートされ、ウェブビューアーが閉じられます。ウェブビューアーに再アクセスする必要があります。

ログ

カメラと関連されたログを確認することができます。カメラアクセス、システム変動事項、発生したイベント情報をログで確認することができます。ログタイプ別にログ情報をエクスポートすることができます。

参考事項

一つのページで確認できる最大ログ数は15件です。
直近に発生したログから確認することができます。
各々のログは最大1000件まで保存されます。
保存されたログが1000件を超えると、最も古いログから削除してから新しいログを保存します。

アクセスログ

アクセスしたアカウント別にログイン、ログアウト情報を確認することができます。

ログタイプ

カメラにアクセスしたアカウントとログイン、ログアウトした日付と時間情報を確認することができます。Allを選択すると、アクセスしたすべてのIDのログイン、ログアウト有無、日付&時間、詳細情報を確認することができます。

エクスポート

選択したログタイプをテキストファイルにエクスポートすることができます。アクセスログをエクスポートするには、[エクスポート]ボタンをクリックします。ログファイル名は、カメラ型名_ログタイプ_エクスポートした日付時間情報に表示されます。

システムログ

システム変動事項に対して日付&時間と詳細情報を確認することができます。

ログタイプ

カメラシステム設定変更情報を日付、時間と共に確認することができます。Allを選択すると、すべてのシステム変動事項に対して日付&時間と詳細情報を確認することができます。

エクスポート

選択したログタイプをテキストファイルにエクスポートすることができます。システムログをエクスポートするには、[エクスポート]ボタンをクリックします。ログファイル名は、カメラ型名_ログタイプ_エクスポートした日付時間情報に表示されます。

イベントログ

システムで発生したイベントに対して日付&時間と詳細情報を確認することができます。

ログタイプ

選択したイベントの発生日付、時間と詳細情報を確認することができます。Allを選択すると、システムで発生したすべてのイベントに対して日付&時間と詳細情報を確認することができます。

エクスポート

選択したログタイプをテキストファイルにエクスポートすることができます。イベントログをエクスポートするには、[エクスポート]ボタンをクリックします。ログファイル名は、カメラ型名_ログタイプ_エクスポートした日付時間情報に表示されます。

オープンプラットフォーム

カメラに追加でアプリケーションをインストールすると、既存の機能の他にも追加でインストールしたアプリケーションの機能を使用することができます。

参考事項

ウェブビューアの右上にある[アプリ]をクリックすると、カメラにインストールされた全てのアプリケーションのリストを確認できます。[アプリケーションへ]をクリックすると、該当アプリケーションの設定画面に移動します。

オープンプラットフォーム

オープンプラットフォーム設置

1. [...]ボタンをクリックしてアプリケーションを選択した後、[開く]ボタンをクリックします。
2. [インストール]ボタンをクリックします。アプリケーションをインストールしたら「インストール済み」というメッセージが表示され、インストールしたアプリケーションの情報がリストに表示されます。

番号

アプリケーションをインストールした手順にNo.が与えられます。

アプリケーション名

アプリケーション名、インストール日時、バージョンが表示されます。

- アンインストール：現在動作しているか、インストールしたアプリケーションを削除します。
- アプリケーションへ：各アプリケーションで提供する画面に移動します。

ステータス

アプリケーションの実行状況を表示します。

アプリケーションが動作中だと「実行中」が表示され、アプリケーションが動作しないと「終了」が表示されます。

- 開始時間：インストールしたアプリケーションを実行します。
- 中止：実行中のアプリケーションを中止します。
- 実行状況：現在、実行中のアプリケーションの資源占有率、生成したスレッドカウント&切替感度などを表示します。アプリケーションが実行中の時のみ有効になります。

設定

アプリケーションの実行優先順位とオートラン有無を設定します。設定した後、[適用]ボタンをクリックしてください。

- 優先順位：実行中のアプリケーション間の優先順位を設定します。全体カメラの資源占有率(カメラのメインタスク&アプリケーション含み)が高くなる場合、

実行中のアプリケーションを強制終了します。この時、ユーザーが「低」に設定したアプリケーション順に強制終了します。

- 自動実行：[有効]を選択すると、カメラ電源&メインタスクを実行する時にアプリケーションが自動に実行されます。

アプリケーション管理者

現在、カメラで動作中のアプリケーションの資源占有率を表示します。

- アプリケーション名：アプリケーション名です。
- メモリ使用量(%)：各アプリケーションのメモリ占有率です。
- CPU使用量(%)：各アプリケーションのCPU占有率です。
- スレッド数：各アプリケーションが生成するスレッドカウントです。
- 実行時間：各アプリケーションの合計切替感度です。
- 動作：各アプリケーションの動作状況です。アプリケーションの実行を中止するには、[アプリの終了]をクリックします。
- メモリ使用率：カメラで現在使用中の全体資源占有率(カメラのメインタスク&アプリケーション含み)です。
- 全体：現在実行中のアプリケーションの数を示します。

参考事項

- アプリケーションのインストール&使用に関するお問い合わせは、Hanwha Vision開発者サイト(<http://step.hanwha-security.com> (<http://step.hanwha-security.com>))にお問い合わせください。

